光

(5)

大正十年十月號

◇勞働の藝術化といふこと……乞子詰
◇一燈園と宣光社との純粹な基礎……西田天香
◇基督敎と光……渡邊謙助
◇土下座……和辻哲郎
◇對話（其三）……松下吉衞
◇踰踉記（其二）……藤井悌
◇詩三章……山本露葉

同人　懺悔報恩の奉仕者
祈願　不二の光明によれる生活
費用　供養されたる淨財

◇一燈園印象……松下春
◇御詫します……秦瞬星
◇信濃の遊步……西田天香
◇信州托鉢のあと……三石生
◇返照錄……遠近兄姉
◇現代生活と見神の意義……中桐確太郎

一燈園◇宣光社

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

光明祈願（暫定）

不二の光明は宇宙に遍滿する陽光の如し。物あり、之に觸れて色々の光を發す。光明祈願は即ち起稿者識外の現象に過ぎず。添すべく削すべく、正さゞる可らず、改作また不可なし。暫定と名づくる所以なり。

不二の光明によりて新生し許されて活きむ

諸宗の眞髓を禮拜して歸一の大願に參ぜん

懺悔の爲に奉仕し、報恩の爲に行乞せん

法爾の清規に隨ひ、世諦を成ぜん

即ち天華香洞に歸り無相の樂園に逍遙せん

我等は先づ不二の光明によりて復活新生し、神に委ね佛に養はれ、他に障りなき生涯を送らざる可からず。

内外古今諸宗の眞髓を禮拜すれば、歸一の大願は正に左の如くなる可し。

通願　皆倶成₌就大圓覺₋

別願　將₌來世界眞平和₋

別に一宗を立てず、單に一宗に偏らず、古今聖者の光を仰ぎ德を頌し、その遺されたる事業を成就せんことを期す。

世間一切の罪惡苦患、何人かその責を脱るゝことを得べき。願くば常に懺悔の心を持して十字街頭に奉仕し菩提心によりて行乞し、以て法界成就の本願に副はんことを。

天眞法爾の戒相に則り、六度の行願に隨ひ、治生產業に即して眞道を行じ、永久眞平和を將來すべき生活法を實證し、以て在家俗諦を成就せんことを期す。

達觀すれば實にも此世は寂光の淨土、妙樂の天國、文明の隆興も進化の事象も乃至清規戒行も、此の見地よりすれば則ち一の遊戯三昧に過ぎず。憾むらくは個中の消息、もとよく言辭の彰旒し得る限りにあらざるを。

暫らく此の實相に名けて天華香洞といふ。

天華香洞の門、假りに名けて一燈園となす。道に志して尚自ら立つ能はざるもの、乃至老、病、幼者等の爲めに設けられたる一の化城とも見る可し。その存立は喜捨の淨財に成り、在園はその清規によりて許さる。

天華香洞に立ち、信託を受けたる財物事業の整理經營に從ふを假りに名けて宣光社といふ。宣光社の目的は世間の執迷、紛爭、葛藤を根絕し、以て齊家、治國、平天下を期するにあり。

天華香洞と一燈園と宣光社と三位にして一體、通じては即ち無相不二。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

労働の藝術化といふこと

西田天香

法友の家の奥座敷に暖かい夜具をかぶりながらフッと眠をさます、昨夜考へながら寝てしまつた「労働の藝術化」について思ひ出す。

世界の哲人思想家がしきりに「労働の藝術化」をさけぶ。何だか手の内のものゝやうに、すぐでも出來るかのやうに。しかし、いうてゐる其人は一體藝術化してゐるのかしらぬ。讀む人の新らしがれる連中も、了解つたやうに自分も思ひ又人に聲高うして傳へもする。でも、一度か藝術化した労働をした事があるだらうか。今自分がかなりに體驗した味ひを思ひ出し面白がつてゐるものゝ、此面白がつてゐる「今」其ものは藝術化した労働であるか。勝手元には水汲むツルべの音がする、何か無邪氣に謡うて荷馬車屋が通る、密かく調べたら何れも労働を賣つてはゐるようが、端的の氣分は面白さうである。しかも彼等は「労働の藝術化」といふ新らしい標語などは少しも知らぬ。かなりに體驗したと思ふ自分も、布團を被りながら彼等の無邪氣な働きを耳にしては、恥かしいといふよりむしろ苦悶を感ぜざるを得ぬ。若しも體驗なうてさけび又之れを讀み傳へなどしてゐるとしたら定めて傷ましい事であらう。神學はキリストの光を消し、經説が反て自然法爾の姿を失はしむる事實があるなら、「労働の藝術化」などゝさけぶ事と、いたづらにかやうな問題に耽溺して、問題の爲めに問題がつてゐるやうな事で、決して労働は藝術化されはすまい。

由來思想は實際を導いてゆく。され共又能く思はねばならぬ、「實際を導いてゆく」とは思想自身の底の知れぬうぬぼれであるかも知れぬ。實際は必らずしも自然法爾ではない。併し無邪氣な實際は自然法爾と妙な交渉がある。さうして昔から此實際を思想が混雑させたかも知れぬ、寝た兒を起すといふ諺のやうに、圓かに目を寫してゐた水を徒らに波立たせるやうに。

既に寝た兒が起きて泣き、圓かな月が崩れ、大元が破れ、光が消えた以上は「禍ひなるかな」である。執はれたる智惠がそれからそれへと經縛してゆく。そこに絢爛たる文化はあらう、けれどもいつも其下に無限の缺陷がある。交通の便が開けて世界は縮まる。分業が愈々細かに

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

なるにつけ統一は益々强くならねばならぬ。まだ縱に民族の一致がまとまらぬ間に橫に國際的に階級のもつれが起る。理想の實現を願うて思想は段々に緊張味を加へ强烈の度を增す。一人の徹底せる大思想が動もすれば世界を震憑するになるのも之れが爲めである、丁度低氣壓が疾風怒濤を卷き起すやうに。無論低壓は獨り起らぬ、起らねばならぬ原因がある、その原因にまた原因がある、そのまた原因と遡諄すると、小さい思想の種となるかも知れぬ。忽然念起などゝも說くが、要するに自然―無邪氣な實際―を離れて考へ出するから起る。

などゝ思ひははてしなく廻轉する。日光は戶を叩き、新聞配達のいさましい聲がする。もうかうなつては寢ても居られぬ。衣服をまとひ夜具をたゝむ。しかし考へはまだ續いてゐる。雨戶をあける手も物うく、仕事が少しもはき／＼せぬ。

マルクスも大思想家であらう、クロポトキンも亦。併し忘れてはならぬ、矢張是等も一種の反動作用に外ならぬ事を、是等の外にいつも大自然が磐居して落付かう／＼としてゐる事を。此大自然に改ることなくして所謂大思想家の目的は達しやうもあるまい。ほんとに落付いて居るものは役にたゝぬやうに見える、けれ共大に役に立つてゐるやうに思ふものがなくならねば眞の理想は實現すまい。考へるものが成就するのでない。本來成就の姿をブチコワスものが「考へる」事より起る。之れを了解した「考へ」は差支ないが了解しない「考へ」は禍ひの源である。

何だかハッキリしてゐるやうだが尙考へを採返してゐる。座敷を掃いてゐるが活き／＼したものでない。からだ全體がケツタルイ。藝術化した勞働として無論今朝の無邪氣な荷馬車屋に及ぶべくもない。一體モリスなどは藝術化した働きをしたものか。

氣を換へて庭に下りる。そうして一切の考へをやめる。腹の底から呼吸する。跣(はだし)になつて大きなツルベをたぐる。庭の塵ヶ掃く。そこには小さな臺所がある、餘り整頓してない。何事も思はずに唯その物の整頓に心をそゝぐ。色々の物が自分を呼ぶやうである。橫にしてある古い障子、其前の半戶棚坪にザル、各落付く處に片付る。廣い板間の場所が出來る。雜布をかけて拭く、風呂場へ通ふ所であつたが、薄疊を敷けば一寸座つて見たくなる。庭の下駄が物をいふ、「御苦勞樣玆がよいよ奧座敷より」「ホンにそうだね全くだよ、座敷に居つて何か用事をと賴むと娘君までがもう結構というてまゝ子扱ひにする、玆に居てすれば自分の領地だね。ヲヤ下駄箱がヱガンデゐる、まちたまへ小板を敷いてビツコを直してあげるから。座敷の友達が起きたな。一ツあの座敷を整理しようね。下駄君まつてゐて呉れ給へ」身は輕く座敷へゆく、手あたり次第に整へる。思はず鼻から何か謡ひ出す。からだの氣血は大巡環する。一枚衣服を脫ぎ捨てる。少々汗は出たが長い廊

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

下をとうと雑巾を拭けてしまふ。あゝ佳い氣持である。座敷の佛壇には誰れかの手で線香が燃てゝある。ヤツと座つて讀經をする。友達も又端座して合掌する。家の娘連は姿を見せぬ、何でもあちらこちらで働いてゐる樣子である、丁度時計のゼンマイを卷いたら大小の車輪が無邪氣に動き出した樣に。あゝ神樣といひたい氣持。此心は先きの荷馬車屋にはないかも知れぬ。勞働の藝術化？藝術の勞働化？、自分は知らぬ、唯自分は光明に養はれて法爾に動く。

是は面白い、今さき、ヒヨツト氣を換へてからは隨分愉快に只緊張してしかもそれ自身は極めて無邪氣に仕事が出來た。心身暢脱して聊かのもだえがない。あれが「勞働の藝術化」であるまいか。自分の藝術化した實際の動きが又無言にしかも雄辯に周圍の人を動かして、所謂普通の勞働を藝術化してゐるかも知れぬ。此消息はそれ自身より他に知る事出來ぬ。藝術化をさけぶとき藝術化せず無思慮の時任運法爾に藝術化す。傳ふものは事實のそれである。傳道するとき道傳はらず、思想いかに傳はるも若唯思想なれば多くの人は實際をはなれて議論の花を咲かすに過ぎぬ。「思ふ」と「爲す」とは一髮の差にして而かも渡り難き大河を距つるに似たるかな。

議論は決して周ねきを得ぬ片側の布なきがやうに、囚はれたる智慧より覺めて「光明」に歸るが必要ではあるまいか。「氣を換へて起て」、そこには大哲學者大思想家の夢にだも見ぬ中天無碍の向道がある。此はマルクスの思想（マルクスの人格は別以下同じ）によつてもクロボトキンの思想によつても又モリスやラツセルの哲學にても救はれぬ。先づ「光明」に歸れ。己れの心身を徹底して飛躍せしめよ。遠い處でない、手近な處から。白雲關は脚下にある。

こんな事を書いて見る。書かずに動いてゐる時にくらべて何となく落付かぬ。あゝ我も亦思索の牢獄にはてしなく曳かるゝもの歟。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

一燈園と宣光社との純粋な基礎（其二）

西田天香

純粋といへば無執着である、誰れの物とも思はず、誰の爲めとも思はず、自分も忘れてそこに起き動き食し生産し、疲れては休み且眠り、而して少しも占領の念なく、我、我家庭、我權利、等の執着起らざるを得ば、他の執着せるものより見れば、それは「純粋無相の奉仕」である。

現在の家庭の內で若し一人が此「純粋無相の奉仕」をなすときは、其家庭は美化される、が、久しい家庭本位の習慣は、內からは其奉仕を「あたりまへ」のやうに思ひ勝ちで、外からは「かれは自分の家庭の爲めに忠實なもの」とのみ思うて容易に其奉仕が無慾無執着であることに氣がつかぬ。

純粋無相の奉仕は己れの家庭とも執着せぬ筈のものであるが故に、今朝出た足が晝隣りの家にはいつて働き、夕べは向ひの家の丁稚の隣りに眠つても、それではならぬといふことはない。驚いたり、それでは困るといふのは執着あるもの丶いふ事で、本人には無關焉である。本人が家庭の了解を得ずして、何等か神の啓示を受け、佛によりて發心し、「光」にみちびかれて、右の狀態となつてしまつたとき、それは驚異となり、狂者扱ひを受けやがては世と人の執着を除く威力となるのである。

此奉仕振りが出家（所謂比丘比丘尼）の姿であつて、活生産業にたづさはらぬ時、聖道門であつて、家族を厭はず、活生産に從事する時、これが不二門で今我等が試みつ丶ある、俗諦成願の「懺悔奉仕」である。

其日々々の活きかたが、自然法爾であつて蒔いては食し、織つては着、木を組んで庵りし、そこには何等の無理な過分の慾を持たぬならば、人類の生活は惠まれたものであつて、澤山な餘裕が出來、けはしい心をもたず、眞と善と美も無意識に具はつて、藝術なども高い調子を失はず、ほんとの文化が生れるのである。

* * * *

○清淨なる奉仕の時間　一日でも五日でも毎日何時間でも。

○清淨なる奉仕の場所　一坪の店先でも十坪の畑でも。

○清淨なる奉仕の資本　十圓の金でも何程でも。

△佛樣のもの、本來のもの、なくつても善いことに用ひたことで滿足が出來るもの。

△始めは自分の家族を養ふの義務と自分の身の維持は色々の因緣で自分のものとなつてゐた商業及財産でやつて往く、但し從前の態度よりは何等かの方法で節約すれば節約の態度か

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

ら產み出ることになる、若し又其外に積極的に慈悲の心を起せば、內は平和になつて消えてゆく筈のものが消えなくなる又商業上に此慈悲を用ゆれば儲けたい考でなくても集つてくる。斯うしたことから奉仕の時間と財產もはみ出て餘りがあることにもなる。是は普通に『積德之家有餘慶』といふ語にあたることでもあるが、**餘慶を目的に德を積むのではない、**兎に角かうしたもので已れの身と家庭は維持してその內から、時間と土地と資本を奉仕するなら、それは清淨なものである。

△淸淨な三つのものを基礎として、他の家へ奉仕するときそれは一燈園の生活で、奉仕されたる家か、又自分と同じ樣な心もちとなつて奉仕するのをあつめて出來る所が一燈園の道場である。

△是を他家の仕事の上にせずに一つの新らしい經濟事象の上に責任を持つて行ふとき、それは宣光社である、一燈園は所有せず宣光社は預りものとして所有の形を採る、商業取引の上に於ての責任も生ずる、是れで特殊の方法で所謂農と工と商を試みたいのである、此方法はあきらかに筋道がたつてある。人間の作爲するものでなくて自然の天則がある、若しも一寸でも所有慾、執着、人我の見等が出るとき、自然の天則はみだれて今の經濟の樣に行きつまつてくる。此行きつまつた世界的經濟事象から脫却するのは宣光社によらねばならぬのも此道理である。

△此一燈園と宣光社が（名は何とつけてもよい）各地に現はれ、互に消費組合と生產組合との間にたちて爲めのよい必需品を交換する役廻りにたち、世間が餘分にとつてゐる利益を或は其儘暫く宣光社に預つて一切の爲めになる樣に用ひ、或は生產消費兩方が道にすゝむならば兩方の利益を謀りて無手數でする迄の間を適當に配分し、何れにあるも道の爲めになる樣にし、**此仕事が盛んになるなら、已れも已れの家族も**これに掛りきつて奉仕するとき、それは新なる方法による商業生活となるのである、是れを農に用ゆるとき農的宣光社、工に用ゆるとき宣光社的工業となるのである。

奥に旅して

倒　挂　子

へうべうと霧雨けぶりみちのくの那須のしの原すゝきはまらず

みちのくの鹽釜道をわが行けばさすらひびとの心わき來も

松島の高木の川はひとつらに尾花しげりてひたひた濡れたり

五大堂ちとせ朽ちせずけふもけふも霧雨のなかに靜もり立てり

みちのくの鳴子の出湯の鳴瀨川ながれを早み鳴りやまぬかも

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

基督教と光

渡邊謙助

編者曰　前號Ｆ子姉の文の眞意は渡邊さんのそれと同じと思ふ、基督教とはなれてといふ意味でなくて光は眞の基督教といふ意味かと思はれるのですが、共に眞面目な文字ですから喜んで掲載することにしました。

私は目下過度の勞働の爲め身心共に疲勞してをるので筆をとる元氣はない。然し昨夜九月號の「光」で「基督教より光へ」の一文を讀んで大に感ずる所があつたので基督教と光と題して一寸所感を十月の「光」紙上でぜひ述べさして頂きたいと急に思ひたつてこれを書いた次第であります。なぜならば私は基督教信者でありながらそのまゝ一燈園生活に共鳴してをる者でありますが今や一燈園の周圍には多數の基督教信者が雲の如く接近しつゝあるのが見えますのでそれらの人々と共に私は基督教と光について探究し且つ教を乞ひたいと云ふ所願があるからであります。

先づ第一に私の所謂所感を述べさしてもらひますが前以て一寸御斷りしてをきたいのは私のこの一文は「基督教より光へ」の一文を批評し又は言葉じりを捉へて揚足をとるつもりでは決してないと云ふ事であります。私は「基督教より光へ」の一文に現れた實に眞劍（シンケン）な態度に敬意を表する者であります。その思想の徑路に於ても大體に於て過りはないと思ふ。さて私思ふに基督教信者はそのまゝ佛教信者もそのまゝ一燈園生活に入り光を仰ぐ事が出來得ると信ずる。これは理論よりは事實が證明してをる。さう云ふ例は佛教の方には澤山あるだらうと思ふが基督教方の例ではアシシのフランシスである。彼は基督教の神より更に大なる光や神を見出したのであの樣な聖者の境地に達したのではないかと思ふ。

次に基督教の說く靈肉一致の境地に表はされ行く實生活と一燈園の生活とは同一不二のものであると思ふ。若しそれが同一不二のものでないとし且つ基督教のその實生活は普通の生活と根本に於ては同じでたゞ程度のちかひだけを意味するものであると云ふならそれは確かにその人だけの誤りである。たゞ少し違ふ點があるとすればそれは基督教の教壇から叫けばれるその割には今の所實行があがつてゐない樣であるが一燈園の方では默してをられる割にはその實行が大にあがつてゐると云ふ所にあると思ふ。

第三基督教の神と光は根本に於て違うてをる。光は神より

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

大なる方である。光は神の源であるから既成の宗教ではよく光を仰ぐ事は出來ないと假りに誰かゞ云はれる事があるとするなら（失禮でありますが假定でありますから許していたゞきたい）それは一燈園生活の退歩であると思ふ。さう云ふ事ならば一燈園は確かに別に一宗一派をたつる事になる。既に**一宗一派をたつる事になれば藝術家の心境を毒する執着が起**り易いと思ふ。玆で私は藝術家と宗教家の相違をその點を一寸述べてをかねばならない。これはむづかしい問題で私には荷が重過ぎる。然し最も簡單に云ふと兩者を劃くものは執着と云ふ事である。執着のない天地、なんと云ふ暢やかな平和な境地であらう。正にこれ地上の天國である。一切の執着のない天地こそ眞の藝術境ではないか。否藝術そのものである一燈園生活はこの藝術境であると私には思はれる。懺悔の生活に一燈園と藝術と云ふ問題が書かれてあつたが一燈園に藝術なしとは誰の云ふた事だらう。一燈園に藝術なし所かむしろ藝術の至境であると私は思ふ。既に一燈園生活は藝術の至境に達してをられるので最早や既成の宗教や信仰の必要がない様なものであらうと思ふ。既に基督になりきつてしまうならば基督の教へられた宗教は必要のない様なもの釋迦になりきつてしまうならば釋迦の説法は必要のない様なものと同じく更に竿頭一歩を進めた藝術の天地にあつては既成の宗教に執着する必要がないと思ふ。それであるから來る者は基督教でもよし又佛教でもよしと云ふ實に寛大な執着のない態度に出る事が出來るだらうと思ふ。たゞ宗教の必要はその様な藝術の至境に達するまでの途上の杖の様なものであらう。既に至境に達した人には杖の必要はないとしても今猶途上にある者にはどうしても既成の宗教が杖が必要である。その人にとつての絶對的宗教絶對的信仰が必要である。從つて途上の先**達である宗教家にも大に杖の必要がある。然し宗教家には**ともすればその杖に執着しやすくなる傾きがある。途上の難關にさしかゝり又は危急の場合には知らずして執着してをる。藝術の至境に達してをられる人にはその執着がない。かく考へ來る時に藝術家と宗教家の相違がだん〳〵明になる様な氣がする。明かになればなるほど藝術家から宗教家を見る時に捉らはれてゐる宗派に執着してゐると思はれるのは無理もない。然し宗教家に執着なくしてどうしよう。牧うものなき羊の群が狼に追はれてをる。助を叫んでをると思ふ時にどうしてたゞ神や光にのみおまかせしたきりでをられようぞ。異端に導かれて亡び行く魂の姿を見る時にどうして執着の手を伸さずに居られようか。私は既成の宗教に執着し宗派をかざし前後して進み行く宗教家の一群の後姿を目送して伏し拜む。その一群を批評して捉はれてゐる執着してをると云ふ聲をきく時に私は一人でに涙がこぼれる。溺死せんとする小兒を目がけて母親が人々を押し仆しその邊の垣などを破つて突入する場合どこに無理があらう。然し退いて靜かに考ふる時にその様な場合にも愛に執着せず度を越えざる程度に於てなすべ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

き様にしたい。宗教家もあまり一本調子にならないで宗派などに執着しないで進まれる様にしてほしい。だか普通の宗教家には愛の故に捉はれたり執着したりする様になり易い。その樣な事の全然ない宗教家は宗教家にして藝術の至境に達してをる人である。宗教と藝術とを渾然融和して實生活これ我宗教これ我藝術としてをる人々は所謂宗教家の中にも所謂藝術家の内にもあると思ふ。普通の勞働者の中から見出すも出來ると思ふ。そしてその樣な人々を宗教家と云ふよりも藝術家とか聖者とか云ふ方がシツクリ適してをる様に思はれる。然し大多數は未だその至境に達してはゐない樣である。達しようと祈りつゝ努力しつゝあるものは多數であると思ふ。既に達してをるのは尊い事ではあるがこの達せんとしつゝある事も尊い。むしろ後者の方に眞の價値があるかも知れない。例せば玆に甲乙の生徒があり同じ作文の題を課せられたとする。甲は百點乙は五十點を教師から與へられたとする。達してをる百點から五十點を見るなら問題にされないかも知れない。然して乙のふだんのつゝあつた努力も試驗當日のつゝあつた努力も甲と同じであつたとするなら否それ以上であつたとするなら如何であらう。若し教師が神であつたらそのつゝあつた努力をよみして多分乙に百點以上を下さるだらうと思ふ。そこで大多數の人々は未だ達してゐないたゞ達せんと祈りつゝ努力しつゝありとするならば先づ第一に既成の宗教の存在の理由を承認せざるを得ない。從つて少々捉へられてゐようと執着してゐようと大に宗教家の努力を俟ざるを得まい。特に一燈園生活にまでひき上げられるには大に宗教家の努力とその人に因緣ある信仰が心要であると思ふ。既にひきあげられた後でも大多數の人々には杖とした宗教を捨てる事は出來まいと思ふ。私にとつてはその杖を捨てる所ではないます／＼その杖にすがつて進まねばならない。なぜならばたとへかりに藝術の至境に達したとしても登れば登る程峯の高きを思ふ。アルプスの上に更にアルプスの聳えるのが見える。私は天に達する迄この杖を離さない、否はなさない樣に神樣に握らしてもらうのである。基督教は私にとつて絶對的のものである。理論としては他の宗教によつてゞも救はれるだらうと思ふがさらばと云うて私が今直ちに基督教を捨て天理教を信じて救を受けてもよい筈であらうが それが私に出來ない。然し既に天理教を信じて居る人には天理教によつてそのまゝ救はれる事が出來るだらうと思ふ。がその人も今直ちに天理教を捨てゝ基督教を信じ救を受ける事は人によつて絶對に出來まいと思ふ。故に宗教は各々その人にとつては絶對的のものでなければならないと思ふ。若しさうでなかつたらどうして大磐石の上に毅然と立たしてもらう事が出來るかどうして他人の信仰に敬意を拂ふ事が出來るか。昔の開山達は皆各々その宗教を絶對的のものと認めたから起ちあがつて叫んだのである。人々に無理とも思はるゝ程迄にすゝめたのである。强いたのである。そこに彼等の權威がありその宗教の生

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

命があつた。誰か彼等を目してキリストや釋迦日蓮マホメツトを指して自己の宗教に捉はれてゐる宗派に執着してゐるとあげつらう者があらうぞ。今日に於ても自己の宗教を絶對的のものとし且つ叫び且つ人々に強いてゐる宗教家は多數ある。不純や執着の分子が混じてゐるとしてもその底に光つてゐる權威と生命とを見逃してはならない。故に信仰は各々その人にとつて絶對的のものでなければならない。佛者には佛教基督者には基督教が我にとつての絶對的のものであると信じて居るべきものであると思ふ。基督教は私にとつては絶對的のものである故に私は基督教の中に天華香洞も一燈園も宣光社もそのまゝ光もそのまゝ見出す事が出來る。佛者佛教の中にそれらをそのまゝ見出す事が出來るだらうと思ふ。それらをそのまゝその中に見出す事が出來ない宗教があるならその宗教によつては恐らく誰も救はれまい。若し基督教の中に見出すそれと一燈園のそれとは根本に於て全然違うと云ふ人があるなら私はその人より教を乞はんとするものである。

――九月二十七日――

障子張り

三石勝五郎

鑵工場にエンジンの響わり
ぼろふくの職工は働らく――
工場の隅で西の國より來た男と
信州の山から來た男とが障子張り
糊をといて
一心に
破れた穴をふさいだ

山の夜

山の夜は
名もなきとりの
ながなきて
「起きろ」とないた
「あほう」とないた

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

土下座

和辻哲郎

ある男が祖父の葬式に行つたときの話です。田舍のことで葬場は墓地のそばの空地を使ふことになつてゐます。大きい松が二三本、その下に石の棺臺、——松の樹蔭は漸くお坊さんや遺族を覆ふくらゐで、會葬者は皆炎熱の太陽に照りつけられながら、芝生の上や畑の中に立つてゐました。永い馴染でもあり、また癇癪持ではあつたが心から親切な醫者として半世紀以上この田舍で働いてゐた祖父のために、ずゐぶん多くの人が會葬してくれました。

式が終りに近づいた時、この男は父親と二人で墓地の入口へ出ました。會葬者に挨拶するためです。入口のところには道側の芝の中に小さい石の地藏樣が並んでゐました。それと向ひ合つた左道側の雜草の上に、荒蓆が一枚敷いてあります。その上に彼は父親と二人でしやがみました。そこへ來るまで彼は、道側に立つて會葬者に御辭儀するのだらうと考へてゐましたが、父親がしやがんだので同じく眞似をしてしやがんだのです。

やがて式がすんで、會葬者がぞろ〳〵と歸つて行きます。狹い田舍道ですから會葬者の足がすぐ眼の前を通つて行くのです。靴をはいた足や長い裾と足袋で隱された足などは極めて少數で、多くは銅色にやけた農業勞働者の足でした。彼はうなだれたまゝその足に會釋しました。せい〴〵見るのは腰から下ですが、それだけ見てゐてもその足の持主がどんな顏をしてどんなお辭儀をして彼の前を通つて行くかゞ解るのです。或人はいかにも恐縮したようなそぶりをしました。或人は涙ぐむように見えました。彼はこの瞬間にぢゞいの靈を中に置いてこれらの人々の心と思ひがけぬ密接な交通をしてゐるのを感じました。實際彼も涙する心持で、ぢゞいを葬つてくれた人々に、——といふよりはその人々の足に、心から感謝の意を表はしてゐました。さうしてこの人々の前に土下座してゐることが、いかにも當然な、似つかはしいことのように思へました。

これは彼にとつて實に思ひがけぬことでした。彼はこれらの人々の前に謙遜にならうなどと考へたことはなかつたのです。たゞ慢然と風習に從つて土下座したに過ぎぬのです。然るに自分の身をかういふ形に置いたといふことで、自分にも思ひがけぬような謙遜な氣持になれたのです。彼はこの時、銅色の足と自分との關係が、やつと正しい位置に戾されたといふ氣がしました。さうして正當な心の交通が、やつとこゝで可能になつたといふ氣がしました。それと共に現在の社會組織や教育などといふものが、知らず〳〵の間にどれだけ人と人との間を距てゝゐるかといふことにも氣づきました。心情さへ謙遜になつてゐれば、形は必ずしも問ふに及ばぬと考

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

へてゐた彼は、こいで形の意味をしみぐ＼と感じました。

　彼と父親とがさうして土下座してゐるところへ、七十餘りになる老人が、佛前に供へた造花の花を二枝手に持つて、泣きながらやつて來ました。「おぢいさんの永生きにあやかりたうてな、こ、こ、これを、もらうて來ました。なあ、おぢいさんは永生きぢやつた……永生きぢやつた……」涙で聲を詰らせながら、酒に醉うたもののやうにふらぐ＼しながらこの老人は幾度も同じことを繰り返して造花を振り廻はしました。祖父は九十二歳まで生きたのです。さうしてこの祖父が生きてゐたことは、この界隈の老人連に對して、生命の保證のやうに感じられてゐたに相違ないのです。その祖父が死んだ、それがこの老人連にどんな印象を與へたか、――彼はやつとそこに氣づきました。彼が物心がついた時には祖父はもう七十以上で、その後二十年の間、この界隈の老人が死ぬ毎に、幾度となく祖父の感慨を聞いたものでした。昔の同じ時代を知つてゐるものが、もうたつた三人になつた、二人になつた、一人になつた、自分ひとり取り殘された！　或はまた、自分の次の時代のものさへも、もう殆んど殘つてゐない！　祖父はそれを寂しさうに話しました。しかしこの祖父の心の寂しさを、彼は今まで氣づかないでゐたのです。彼はたゞ孫の立場で、この善良な、しかし頑固な祖父のために、いかに孫たちが餘計な苦勞をしなければならないかのみ感じてゐました。今祖父を葬つたその場で、永い間の祖父の心の寂しさを、この造花を振りまはす老人から教はりました。彼の知らなかつた老人の心の世界が、漠然とながら彼にも開けて來ました。彼は土下座したために老人に對して人間らしい心を教はることが出來たのです。

　彼は翌日また父親と共に、自分の村だけは家毎に禮に廻りました。彼は銅色の足に禮をしたと同じ心持で、黒くすゝけた農家の土間や農事の手傳ひで日にやけた善良な農家の主婦たちに禮をしました。彼が親しみを感ずることが出來なかつたのは、かういふ村でも既に見出すことの出來る曖昧宿で、夜の仕事のために晝寢をしてゐる二三のだらしない女から、都會の文明の片鱗を見せたやうな無感動な眼を向けられた時だけでした。がこの一二の例外が、彼には妙にひどくこたへました。彼はその時、昨日から續いた自分の心持に、少しひゞの入つたことを感じたのです。折角のぼつた高みから、また引下されたやうな氣持がしたのです。

　彼がもしこの土下座の經驗を彼の生活全體に押しひろめる事が出來たら、彼は新しい生活に進出することが出來るでせう。彼はその問題を絶えず心で暖めてゐます。或は何時か孵る時があるかも知れません。しかしあの時入つたひゞはそのまゝになつてゐます。それは偶然に入つたひゞではなく、やはり彼自身の心にある必然のひゞでした。このひゞの繕へる時が來なくては、恐らく彼の卵は孵らないでせう。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

對話 その三

松下吉衛

S。近頃宣光社の試營ぶりわどうだい？

K。隨分ゴテ〳〵しているよ。監査役とも大衝突してしまつた。

S。君にも似あわんことをするな。

K。資本、勞力の大部分が淨まつてないのだから、經營が可なりやゝこしい。世間の營利會社と殆んど全く同一線に立たにやならぬ。僕達のやうな未熟者や生活環境の支配を受けてどうしても定力がぬけて來る。

S。そんなに骨の折れるものかね。みんな樂々やつてるやうだが……

K。金儲けが生活の基調となつている人々にとつてわ「唯一の道」であろうから極めての自然事で問題にもなるまいが、内々信頼し得る共働者なく、あつちからもこつちからも、あゝでもないこうでもないと、もまれ通しでわ、宣光社を經濟的に立てる爲めに、企業家氣分に墮せざるを得んのだ。こうして普通經濟の支配圈内にはいり込んでる以上、すべての交渉に「面從」が最高に價値づけられる。そしてこの歎賞すべき美徳の所有主わ「圓滿な人物」を以て目される。それから取り分け堪えがたいのわ、資本家の御機嫌とりをある程度までわどうしても餘儀なくさせられることだ。世間でわこれも「社交」と稱して紳士たるものになくて叶わぬ務めの一つに數えている。こればかりわほんとうにたまらん。光のためにこそ奉仕の一生と觀念わして居るものゝこうして「圓滿な社交を辨する人物」となりすましてヂツとしていることは、何ぼ何でも切なさすぎる。火わ消され通しだ、イヤつける暇さえないのだ。

S。そんなかな。そんなにひどいもんかな。

K。話しに聞くとわまた別な感じだ。天香師が田ノ澤の鑛山の經營でさん〴〵な目にあわれたあげく、モ一歩宣光社に踏込むか去つて天華香洞に歸らんかの分岐點に立たれた時、後の道をお選びになつたのわ、ほんとうだつたと考えられる。今や何をおいても燈だけはつけ通さねばなるまい。僕達にわどうせ油槽の搬走夫位の役しか務まるまいが。

S。それでわ宣光社から身を退く氣なのか。その爲めに世間の不詳を買つて將來仕事をする邪魔になつてわつまらんだろう。

K。つまるつまらんわ娑婆のことだ。天華香洞に歸る身に利害得失わない筈だ。

S。又いつもの流儀が出たね。

K。自分はたゞほんとうの生活を望んでいる。自分の願わ一日でもよい一刻でもよい、ほんとうに活き切つて死にたいのだ。だから仕事など一日一日變つて行つたとて何でもな

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

い。その爲めに移り氣であるの飽き早いのとの批評わ甘受する。

S。でわ又乞食のまねごとでも始めようといふのか。

K。「まねごと」わ少うきついな。

S。そうぢやないか。君だけわいゝとしてもあれで妻子や老親が養つて行けるかね、實際問題として。

K。遁辭のようだが果分不可說だ。やつて見んことにわからん風光だね。しかし、いのりのかたちわ何も君の所謂「乞食のまねごと」に限られてはいないのだから、形からばかり見られると飛んだ誤解を伴う恐れがある。要は執着さへなければよいんだろうから。

S。無執着も結構だが、仕事の能率があがらんようでも困るね。」僕に云わせると、君方のわ寧ろ執着がなさすぎるところに憂があるのだろうと思ふ。

K。高くとまつてゐるようだが、「事功」に對する評價がちがうので、そう見えてくるのかも知れん。はたらく方向がマイナスなら、事務があがる程、値わへつて行く理窟だろう。

S。それわそうだ。

K。今、世の中でマイナスでない仕事、云ひかえれば生存競爭の種子になつて居らぬ生活、進んでわ生存競爭を幾分なり緩和する側に立つている生活をしている人が果してどの位あるだらう。學者政治家實業家宗教家！現代わ所謂「事功」を餘りにあけ過ぎる人の多きに苦しんでいるのでわなかろうか。僕達の時にやらせて貰う「乞食のまねごと」でもよし正數の仲間入りわ出來なくとも少くともゼロ位の値あらうと思ふが。

S。そう云えばそうだ。

K。金錢か殆んど全能にも近い支配力をもつて居る時に、金錢の權威を絕對に否定した生活、自己のはたらきを價格にのぼさない徹底的奉仕の定證わ、世界苦社會問題―根絕の一良劑であると共に、具眼者からすれば資本主義にとつてわ可なりな脅威であることが分ろう。

S。ウン。

K。「神と財とにわ兼ね仕ふる能わず」。宣光社わ云うべくして實行至難だこれわ道心ある實業家にお任せして、光の使徒わヅン／＼その方え召されて行くべきであらう。

祈りといふことは雄々しく尊いことをすることである、すべて光にみちびかれてゐるものと信じて手近なことから人に奉仕することである。
決して他を責めずに自分が足らぬのであると思ふときに、何事にも不平はない。
勿體ない、ありがたい、われよりもまづしく、つらく、苦勞をしてゐる同じ年頃のものがまぜかへすほどあるものを、われは勿體なし、さるにても御恩返しのことをはげまばや　――天香日記より――

蹌踉記（その二）

――昔の日記帳から――

藤井悌

◇

本のページを披いたら小さい蛾が干からびて死んでゐた。昨夜閉ぢたときに挾まつて押しつぶされたものと見える。極めて日常の極めて些細な私の無意識の所作によつて、この小動物は非業の死を遂げたのだ。そして彼の生命は彼にとつては唯一のものである、至上のものである。昨夜までの其のさゝやかな生命を維いでくるにも、かず〳〵の忍苦があり警戒があり爭闘があつたのである。――戰慄すべき無意識の暴虐

寢返りをするぞわき寄れきりぎりす

ふと思ひ起す、しみ〴〵優しい一茶の心づかいが懷しい。

◇

幼い頃から自ら斯くありたいと憧れ望んで來たものは、一口に言へば無私の人である、觀察にも考量にも行動にも苟くも利己的の偏頗をさしはさまぬ人である。常に己れを虚しうして眞と信ずるところに從ひ、己れを低うして默々として善を行ずる。僞りと怯懦とは其の最も忌むところであり、驕慢と名聞心とは其の最も卑しむところであらねばならぬ。斯かる人、さなくとも斯かるべき道程にある人には不安はない筈である。このごろ正體の知れない壓迫を頻りに心に感ずるのは、思ふにいつとなく根生が下びてゐたからである。精進の氣力に弱りが來たからである。ふり返つて見ると、目的の定かでない漠然たる貪慾が、ひそかに胸底をくふかいところに巣くうてゐる。何らかの幸運にありつきたいやうな淺ましい空想さへ、時として體裁のいゝ假裝で忍び出る。唾棄すべき者よ、斯かるとき汝の皮膚を壞り脂肪に火を點ずるの苦行を要するのである。

◇

誰のために生きてゐるのだ。

誰のためでもない。生きてゐるから生きてゐるのだ。

生きてゐるのが面白いのか。

ちつとも面白くない。

それではなぜ生きてゐる。

生きてゐるほかはないからだ。

死ぬことができるではないか。

今は死ねない。

面白くないのになぜ死ねない。

面白くないから死ねないのだ。私は生の價値を知りたいのだ。私は生の歡びを發見しなければならない。

それは空な努力だ。それよりも人の歡びを助けるやうに、人の惱みを取りのけるやう　働いた方が宜い。そこに生の效用が出てくる。效用のないところに價値はない。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

それは人の付けてくれた價格だ。そんなものは私を滿足させない。自分の價値は自分に求めなければならない。人を離れて自分に價値を求めた者はみな滅びた。古來幾人かゞ試みて悉く失敗した。人に親切をせよ、隣りを愛せよ。飛びたつやうな歡びはなくとも、靜かな柔かな滿足がある。山の後ろには谷がある。をちついて平地を歩け、眼の覺めるやうな眺望はなくても柔かな草もある、香ばしい花もある、爽やかな大氣も滿ち滿ちてゐる。

眼の覺めるやうな眺望！眩しい光！山へ登らう。山へ！山へ！谷に墮ちてもかまはない。人のくれた價格をふり棄てゝ自分の中に價値を探さう。

然しお前はちつとも努力をしないではないか。手近な、はつきりした目標なしに努力することが、どんなに困難であるかに氣がつかないか。努力のない生からどんな價値が生れるといふのだ。

□溪流に落葉がたまる、流れは見えなくても下には淀まず走つてゐる、見えぬから流れてゐないものと思ふは淺墓であるまいか。

□調子の善い時はホヤ々々してくるゝ少し調子が惡くなるとよりさわらぬ、調子の惡いときかて道の生命は續いてある、否その時こそ一段緊張してゐるものである、輕薄な友人は日和を見る、眞味な道友はつらいときの力になる。

□けれども兇よりすれば共に善き友達であらねばならぬ、惡口する敵まで己れとみがく玉ともなり、己れを導く師ともなる。

□こんなことを書いてゐるうち、己れの輕薄さを考へ出した、あゝ衰へたるかな我道悟皆懺悔々々々。十、九、五、

——天香日記より——

詩三章

山本盧葉

切開

エナメルに塗られた天井も
周圍の陶瓦の壁も
皆よく洗はれて塵一つ見えない
磨り硝子から透り來る窓の光線
手術臺に横たはる蒼白い女の顔
それを取り圍んで立つ
ドクトルと助手と看護婦の眞白い衣物
總ては白く、明るく
けれども靜に空氣は沈む
海の底のやうに――！

手洗所の蛇口から微溫湯は音もなく流れ落ち
シンメルブッシュの煮沸器は
ゴト〳〵と悲しげに鳴く

女の口に蔽はれたコッヘル氏假面から
あまい魅惑的なコロヽの臭ひが漂ひ來て人を誘へば
女はスヤ〳〵と眠り
その瞳を覗く助手の顔は蒼く冴えて
人々には言葉もなく
木の精、沼の精の
森の夜の集ひか、死の谿の忍び合ひ

と今、運ばれた樣々の器械が
キラ〳〵と光る中から
取出された彎剪刀
ツト手術臺に寄るドクトルの手に
力強く握られて燦く

おゝ今眞二つに斷ち割られる下腹部
それから親と子との運命の切開き
おゝ此の瞬間よ
陽も歩みを止め、風は死に、呼吸は塞る
ドクトルの口(くち)はきりゝと締り
眼は鋭く光る

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

悪魔か、天使か、今ドクトルは人ではない
人間の尊い生命の權を握つて
彼は明暗の十字街に立つた

ホルモンよ

新らしい者は產れる
胎兒は完く成育した
おゝ今子宮が開く――！

乳腺はハチ切れやうとしてゐる
新らしい要求者か
その乳首に舌を捲付ける時
初めて生命の糧は湧出でる

乳房に其の使命をもたらして
走れ、ほとばしれと呼ぶコンダクター
おゝ天の翼もつホルモンよ
汝こそは誠に使徒

蟬の兒

蟬の卵は八年の間
地の中に埋つてゐて
やがて蟲となり殼を出て
短い一夏を鳴き暮らすのださうだ

他の多くの蟲の中には
もつと〳〵長く
蟄居したり雌伏するのがあるかも知れない
人間が鳴かず飛ばず
一生涯を世に隱れても
僅か五十年の生命である

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

一燈園の印象

松下春

先年不意に天香さんが秋田花輪の吉田樣の奧さんをお連れになり京都見物とのことで自分もお供させて頂きました。七條の停車場へ着きましたら、お迎への方々三四人お見えになりました。その中で目立つて美しいお方が勝淳さんでしたので驚きました。こんなことを申しますと餘り失禮ですが、天香さんがお粗末な身なりの方ですから、定めし奧さんも貧乏けなお方だらうと想像して居りましたら、お召物は上等でない元祿袖でセルのコートを召されて居ましたが、おきりやうよが並勝れお髮はお切りになつたのが少しのびたのをヤツト結へておゐでなされ黑くつて癖もなく實に惜しいやうでした。

一燈園には十五日ばかり御厄介になつて居りましたが、その中に勝淳さんのなさる〻ことが實に感じ入りましたから、「光」の發行を幸に皆樣方に御紹介いたしたいと思ひますのです。天香さんのえらいことは皆樣がお書きになつてゞすが、勝淳さんにいつては餘り云はれてないのが遺憾な氣がいたしますのです。元より無學な老婆のこと故、思ふやうに筆が走りませんからよろしくお讀みわけ願ひます。

その時には女子大學卒業の熊本の本多さん、お秀さん、秋田のお久さん、島根の御夫婦の方、他に男の方五六人、氣狂ひも居れば目くらで腰の立たない人や親のない十歳ばかりの子供も居りました。勝淳さん先き立ちで娘さん方を相手に夜分は十時までも夜なべをなされ、朝は早く暗い中からお起きになり、三升以上の御飯をお炊きになりますから、私も餘計のお世話ですが、お氣の毒に思ひ、若い方を起してお手傳をさせなされては如何ですと申しましたら、皆樣が起れば家中の電燈をつけますから、夜が明けてから起きて貰ふのです。自分だけならお釜の下の火でお味噌位はすれますとお言ひなさいます。又米をとぎますと白水は少しも捨てません。初めの好い水は洗濯につかひ、きれいになつた水はお汁の中へ入れるのです。

時期が松茸の出盛りでしたので松茸飯をたくこともありましたが、皆樣に澤山に食べさせ御自分はあとになつて冷ご飯をあがつておゐで故、私が氣の毒ですと申しましたら、そんなに皆さんがおいしいつて喜んであがつてはよう御座いましたと、それは〳〵うれしさうなお顏をなすつておいでゞす。いつも朝は雜炊のお鍋拂ひばかりなすつて決して不足らしい風はありません。

或時、芝居に御案内下さいました。お辨當やら甘味水菓子など何かとお整へ下され、今にも幕が明く時分ですのに勝淳さんがお見えになりません。どうなされたのやらと思つて居ります中に、一燈園においでになる娘さん方お二人見えられてのお話しに、勝淳さん御用があるからとの電話故參りまし

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

たら御自分の代りに芝居へ行つて下さいとおつしやいますのであがりましたとのこと。

私などは年はとつても芝居は見たいと思ひますのに滕淳さんのなされ方にはつく〲感じ入りました。

それから一燈園の食物について一寸お話しいたしますが生ぐさと云ふ物は鰹節でも食しません。煮出しには昆布を用ひその出しがらは細かに切り鹽で味をつけてお茶にします。その外食物は何でも御精進です。此頃眞の僧侶でも肉や魚を食しますが一燈園のなされ方は何と見ましても僧侶以上には敬服の外ありません。

若い娘子さんは見習に一ケ月なりともお頼みになつたらお嫁さんに入らしつてからお困りにならず又根生の屈つた人は滕淳さんをお手本にされたらどんなに爲めになるかと思ひます。

晝は諸所托鉢にお洗濯やら何かのお手傳に行かれお體に少しのおすきなく實に〱感じることばかり。このお方どうしてこの様なお生活をなさるかと思ひますと涙がこぼれます。まだ〱色々お話したいことがございますが餘り長くなりますから此位で筆を擱かして貰ひます。（十月一日）

御詫びします

――中桐、西田兩先生に――

秦瞬星

私が西田先生の事を御聽きしたのは餘程前からでした。中桐先生を御伺ひする度毎に先生は何時も私のために天香先生の御話をして下さいました。併しその時の私の心持を率直に申せば、最初にその御話を聽いた時は『あ、さういふ人が居るかなと位ゐしか思ひませんでした。それが一度二度三度と度重なると同時に私は是非天香先生に御目にかゝりたい樣な氣がしました。それは第一に自分の敬し信じてゐる中桐先生が一度ならず二度三度とその人の御話をなさる、イヤその人の人格と信仰を稱讃し感激される上からは、西田さんといふ人は少くとも世間並の人ではない、矢張り敬すべき宗教家に違ひないといふ、詰り中桐先生を通して西田先生の御人格に觸れた事と、第二に、長い間信仰生活に憧憬れて居つてしかも孰れの宗教にも歸依する事が出來ず、始終一人で悶々として苦しんで居つた自分は、或は全然豫期しなかつたその人に依つて心境を開拓して貰へないとも限らぬといふ微かな希望と第三には或は第一第二の自分の豫想がすべて裏切られても、日本にゐる間、兎に角色彩の違つた多くの人に會つて置くのも萬更悪い事ではないといふ功利的な好奇心と、この三つの

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

原因に依つて私は一日も早く西田先生に御目に掛かるべく强ひられました。

そしてその日が來ました。それは矢張り中桐先生の御宅でしたが黑か、紺の木綿の着物を着てムツリと机の傍に坐つてゐる人、一見筋肉勞働者の樣にも見えるがそれにしては如何にも品がよく、又その坐つてゐる態度が嚴然としてどことなく一種犯し難い力が籠つてゐる樣に見えました。果せる哉、この人が卽ち西田先生その人であつたのでした。その日は先生も非常に急がるゝと云つて初對面の御挨拶を申したゞけ他に信仰上の御話をする暇も得ずに御別れをし、その後程經て再び御目に掛つたのは丁度私が東京生活を止めて京城へ引揚げる際、中桐先生に御暇乞ひに上つた時であつたと思ひますその時西田先生は非常に懷かしげな態度で『あなたは私を忘れても、私はチヤンとあなたを覺えて居ります。この通りあなたの御名前は私の手帳に控へてあります』と手帳迄見せて下さいました。それから餞別の贐としてその時出版したばかりの倉田百三氏の「出家とその弟子」に中桐先生と御二人で前辭を書いて下さいました。それから以來は西田先生に御目に掛かる機會がありませんでした。尤もこの時私の出發が豫期したより少し遲れて、その途中京都で降りて鹿ケ谷の一燈園を尋ねて往つたけれども先生は丁度御留守で御目に掛かれず、園友の一人に手厚い待遇を受けて來た事があります。西田先生と私との間に於ける直接交渉は單にこの呆氣ない二回の會見に止まりました。併し私はこの二回の會見に依つて非常に强い或る感じを感じました。そして强い感じそのものが私に取つては何より貴いものでありました。

その後私は京城に歸つて新聞記者をやつたりする中にかなりだらしのない不規律な生活をやりました。ソシテ時には人を呪ひ我を呪ひ家庭を呪ひ社會を呪つて、あるとあらゆる世のすべてを呪はざるものなしといふ惡魔になつた事もありました。さういふ際私は如何ばかり、西田先生に依つて感得したその强い感じに依つて復活されようと願つた事でせう。しかし憐み下さい！私にはそれだけの强い力がありませんでした――欲求はあるけれども意志力が足りません。理屈は知つて居るけれども信仰が足りません。私は現實の穢れた事をよく知つて居ります。併しどうしてもそれより離れる事を許されませんでした。離れようとするその反面には又非常に强い執着と未練とに惱まさるのです。聖者生活の淸きに對して人一倍に憧憬れて居ります。併しそれに突進するだけの力が足りません。私はこれ程弱い凡人です。

かういふ風な煮切らない、見憎い二重生活を長い間やつて來ました。その結果今はたゞ凡中凡の引かれ者の生活をやつて居ります。隨つて今は却つて中桐先生や西田先生に御目に掛かる事、その事が既に私に取つては非常な苦痛と羞恥と恐怖の種になつて居ります。

併し私は始終一燈園、宣光社の事を友人や先輩に御話して

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

皆がその光に觸れる様にと努めては居ります。そこに矛盾があるかは知れません。しかし私がその同人になれないのは迷つてゐるのは決してその光りを否定するからではない、たゞ罪深い自分は、より以上に苦しみ／＼苦しみ抜いて十分に罪を贖つた上でなければ同人になり得ない事を自覺したに過ぎ**ない事だから、他人に御勸めする事は少しも矛盾がないと思**ふのです。尤もその力は弱いでせうけれども。

ソシテ時々朝鮮人の中にもその光りを受けて、灵にも肉にも彷徨ひつゝある朝鮮民衆のために光りを擴めてくれる人があればとも思ひました（特に朝鮮人にといふのは少し偏狹かも知れぬけれども）。其處へ丁度中桐先生から、李命錫といふ人が此度一燈園の同人になつたが知つて居るかと聞かれました。實は同じ朝鮮人ではあるが鄕里の相違から未だ私は李君に會つた事がない、隨つてその人格も知る事が出來なかつたのを殘念に思ひます。併し李君がその光りに觸れ、そして一燈園の同人の一人として奉仕してゐるといふ事か既にその人の人格を表現した事であり、且つ「光」第三號に書いた文に依つて十分その人の信仰生活を窺知する事が出來ました。そして私は一人の人間として又朝鮮人の一人として非常に悅びを感じました。李君も知つてる通り、イヤ李君自身が既に體驗した通り、その様な心灵の悩み、肉體の悩みを朝鮮人誰しもが皆持つて居ります。この灵にも肉にも飢えてゐる人類の一部分のために、イヤずつと狹い意味に於て同胞のために李君には十分働いて貰はなければなりません。そして彼等を救ふには涵養分に富んだ多くの糧が必要である事は李君自身もよく御承知だらうと思ひます。だがこの貴い光りを凡俗な政治的意味に使つてはなりません。**それは絶對になりません。**もしさういふ事があるとすれば**それは冒瀆です。**これも**李君自身がよく知つてゐる事でせうが、**朝鮮に於ける組合教會の不振の原因がそこにあるのです。日本の宗教家が宗教を以て直ちに政治と結付けようとしたその事が失敗の原因のすべてゞす。この事は或はその教會の牧師に云はせたら絶對に否認するかも知れぬ。けれども少くとも朝鮮人間にさういふ風に誤解されてゐる事だけは事實です。

先生、彼をよく導いて下さい。私は衷心これを御願ひ致します。そして併せて私をも見棄てないで下さい。私も先生方の愛と光りに依つて救はれる日があると自ら確信して居ります。何卒見棄てないで下さい。

末筆ながら兩先生に勝利あらん事を祈ります。そして李兄やその他の諸友にも。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

信濃の遊歩

天香

何うとしても書くことがをつくうになる。話すことが力がないやうに思ふ。しかしたつてといはれるのをどうするわけにもゆかぬ。「懺悔の生活」がこのやうに反響があらうとはもとより豫期してはゐなかつた。出版する春秋社に損をさせはせぬかと心配した程であつたのに、案外に賣れて、よい氣持で扱つてくださる。たゞの出版やさんのやうでなく「光」のためにもつくして下さる。讀者の方からいたゞく手紙も、みな眞劔な實際問題で、わたしは思ふやうにお返事のかけぬのをすまぬとはおもふけれど、出來るだけ祈つて緣をむすんでいたゞくことに於て充實さを増してゆく。一面からはまた「浮足になるな」、「あぶないぞ」、「僞善者である」、「二重人格である」とも注意して叱かつて下さる、これも全く共通りで、あるので、ありがたく厚意を謝して反省させてもらう。何事もみな「光」のおかげとよろこばれて何のこだはりもなく、すべての人樣の前に感謝させてもらへるのは、わたしの仕合せである。

宣光社の仕事が一燈園のそれと別の使命をもつてゐて、しかもそれが今の世の中に重大な試みであるからして、それを一つのからだで試みさせてもらうてゐる間、わたしの態度は隨分問題にならう、なるのが當然で、又なることによつて今の時の難問題に解決の手がつくことゝ思はれもする。あらゆる非難も攻撃も皆互に此問題の解決を要求する至純至誠の祈りから出るもので、ありがたいことである。どうか私を、何か一寸でもエライものゝやうに扱はずに、たゝいて〳〵修行させて下さい、どこかにうぬぼれがわたしにあることは自分にもよく知つてゐます、いやな感じをあたへもしましやう、行屆かぬ事だらけになつてゐることもある、腹をたてさせてゐることゝも思ひます、しかし少しも忘れてはゐぬつもりせんぐり〳〵とゝのへて行きたいと、セツセと奉仕させてもらうてゐますのですから、出來たら許して共に祈つて、差あたつてゐる人類の問題を共に修證させて下さい。

信州へ呼ばれて今度は二度目です、教育者の方々から非常に歡迎されて、十日間澤山な學生さん達に緣を結んでいたゞいた。講演は私の爲めに落付かないことはわかつてゐるが、一方に同人の方々が托鉢して下さるのでよく落付いた。たとへば或女學校でお話しする、先發の托鉢者が下坐して色々掃除をして下さる、それで學生さん達も共にやつて下さる。舍監さんが「何年かいふても心地よくしかねる仕事を生徒達が喜んで今朝はしてくれました」と禮をいうて下さる、私の講話はもうそこに雄辯にされてある、あとの話しはほんのその說明に過ぎぬ。中には「先生が講演で弟子が下駄箱の掃除か」などゝ評する人もありましたが、これは極めて少數で、ほん

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

の素通りの聽衆である、かゝる評者も終にはつながつて呉れたのでありがたい。講演又講演で心配かける一方に、うまく托鉢して下さる同人と、うまく聽いて下さる聽衆とで、唯普通の講演のやうにもならないで、實生活にくい入つて、その**日から新生涯に入りたいと思うた人も少くない。入つた人も**出來、又もとの生活の形式の內で內面に思ひ切て實行して下さる人は隨分出來るやうにも思へた、全く「光」のお德であつて、自分共の上すべりの體度のうちからも相當の救護をして下さつたと云ふてもよい。よいことは「光」の力である、わるい處は私の不德であると思ふてお詫をする。

信州をこんな調子で引張られて行くうちに、今更のやうに難有かつたのは「父の家には住居多し」との聖書の句が、まざ〳〵と事實にあらはれることである。一時は一行は十人であつたが、夕方になるとその人々の宿る場處が適當に且豐かに與へられる、恐らく一行も其光景には感心したことゝ思ふ。今宿めてもらふものも、宿らせる方の人も双方喜び合うて、今夜は何人さんだけ私の方へと引張りあひのやうにつれていつて下さる。切符はいつのまにか誰れかゞ先がけして貰うて下さる、妙なものですな。ほんとに難有い。阿彌陀經に極樂の莊嚴がかいてある、七寶の池あり八功德の水ありとか、金銀瑠璃とか、樣々にあるが恐らく一行の男女老幼とも何だか前の世界のやうに思はれたことゝ信じます。全くこの遊步托鉢は、文珠大士が白象に跨つて九品の淨土をめぐらるゝにも似たものと私は觀ずる、そうして是が少しも、消極的でなく、不生產的でもなく、直ちにその時折の人々の胸のうちにある疑問と行つまりを共に和らげあひほどきあひして、くみ込んだ腕をほどいて翌朝早くから元氣よくはたらき出し一家が何年振りで否始めて和氣靄然となつたやうな事ともなるのであつて見れば、決して是は人事ではない、全く「光」のおはたらきである。今は暫く名を預つておきますが、或縣の有力者で、是は少しの望みもないのに無理に推されて縣會議員にされ、金も山林ももつてゐる方で、多年報德社の世話、色々の組合の世話などをされ、基督教を信じた方で、郡內の敎育事業にも常に意を注いだ人であるが、今度「懺悔の生活」を讀んで下さつて、愈殘生を捧げんと發心され、信州行に加はつて共に托鉢して歸られた人があります。その方は愈自分の家を一燈園と宣光社の二つの規範に則らせて見たいとて、先づ根本に於て『自分がほんとうに「光」に養はれる資格あるかどうかを眞劍に「光」に伺つて見たい』とて何か至誠をこめて祈つてゐられるのである。私は途中より此告白を殘して歸られた朝思はず襟を正しうして內心にふし拜んだ事である。又かりそめに私の講演をきいた人に早稻田出の信州の人がある、道に始めて私にあうて、出しぬけに「先生各地に講演をしてゆきなさるが講演してゐると墮落しますなあ」と言はれた、私は「ほんとにそうです」と答へて共に講演場に行つたのですが、段々にその人が興味と信心を深められて、各地の講演について

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

來られる、信州のもやうを言うて呉れられる、一行に加はつて托鉢をされる、學貧學愚の修行をされる、はては松本の女子師範では一行の托鉢者と全く同じことゝなつて、便所の掃除迄される、その學校の生徒さんには、此人の教へた娘達が十餘人もあつたので、一時は驚異の眼で見られ、二度は非常に慕はれて、畏れながら此生活の尊さを感じたと迄いはれ、遂に東京迄きて、東京一燈園の托鉢者となつてゐられるやうな事もある。何だか始めて會ふた日と見くらべて、互に「妙なものですね」と「光」をたゝへてゐる、何がこのやうに人の心と生活を洗禮してゆくのであるか、やつはり「光」の力といふのが一番適當である。

かやうに、ありがたい喜ばしい事のうらに私には非常に越えがたい關所が三ケ所もあつて、人知れず眞劍に修行させられました、それは一つは姥捨山に捨てられし姥さんのことゝ二つは俳人一茶の事と、三つには妙心の開山關山國師のことである、此三人とも信濃の生れであつて、私はその事績を知つて居り、またこんど聞いて、實にどうして此三人者と語らうかと思ふたのである。汽車で通るは造作もないが、此巨人の生れし土地を通り過ぎるには相當の挨拶をせねばならぬ。私はそれが容易なことではなかつた。松本で最後の夜に一行で紙をのべて合作が始まつた。私はそれに、「捨てられし姥様と一茶關山が人には見えぬ我關所なり」と書いた、是は私しにとつて大問題であり、又大修養であり、又大きな他山の石である。是につひては別に一文を草する事として茲にはこれだけで筆をとめます。

前橋から足利、栃木鹿沼とゆく約束で上野を十一時二十分に發つ時間が切迫して、すぐ筆を措いて此家を旅たねばならぬために。(十月十三日午前十時　於小此木信六郎氏邸)

～～～～～～～～～～

（前略）　偖此程は御多忙中態々信濃萬山の中に　御飛錫被下御休憩の寸隙もあらせず或は學生の爲或は　修身談話會の爲御訓諭被下御高風不堪感佩候常々先生の體驗せられ居候不二の光明を　他へ傳へられ候爲の御講話に候へども到底體驗は體驗にして　口舌に上し得べきものには無之唯何等かの方法に依て幾分之を象徵し得るに　過ぎず候小生は常に思ひ居候碧巖錄臨濟錄等は當時之聖者大衆　の悟之の經路を文字に據りて纔かに徵したる過ぎず時に其の眞髓を　傳ふる能はざるのみか或は徒らに形骸となり　桎梏となりて却つて向上の障りとなる事も有之候やう存ぜられ候乍併先生平生之行事を　御披瀝被下候に依て頗る善く象徵せられ候やう感得致され候(下略)

沒我初看一道光　非儒非佛別開場　天華香洞深而遠　無一物中無盡藏

恭賦一絕　呈天香先生　大正十年秋　臼田櫻邨

信州托鉢のあと

三石生

□

西田天香氏信州に入る。それは今度の講演が第二回目であつた。第一回目は九月、氏が京都から直接に長野へ招聘せられたのであるが、信濃毎日新聞は講演當日の模様を詳しく記して、先づ氏が中學校の便所の掃除をされた事で大部人目を惹いた。

西田天香氏の講演が再びあると云ふので十月二日午後より北佐久郡岩村田小學校には同郡下の教育會員が犇々と押寄せた。

正午過ぎると紺の筒袖の粗末な身形の男が同行者に取圍まれて校門をくゞつた。

「天香がお出になつたと云ふに何處に見えるかな」紳士かと見誤つた人達にかうした愚問は無理もあるまい。天香の本者が眼前をそろ〳〵と行かれたではないか。

紺の筒袖で壇上に現はれた天香氏は「新らしき生活」と題して自分は話すのが商買ではないが話せと言はれるからありのまゝに話させてもらひますと落付かれた。誰れ言ふとなく机を先生に接近させて一息つかずの熱心さ——「懺悔の生活」の一端を引きつゝ無一物中無盡藏の境涯を説かれて聽衆の耳をクリーアにした。

信州の空氣はあまい——と言はれた天香氏。

氏が高原に新らしい光の種子を蒔かれて、都門の塵埃を絕した山紫水明の別天地に、芽生え行く人達の希望を明るくした事實を誰が忘れやうぞ。

夜は同町農學校に招かれて一場の講演後、樂しい集りの中に今日の日程を終る。此の行は一日東京を出發せられて前日は埼玉縣下大里郡御正村小學校に講演して第二日目であつた。

十月三日。前々日來の秋雨は今日も晴れず、高原の霧間を縫つて、岩村田驛より佐久鐵道に乘り南行して滑津停留所に下車、それより南佐久郡中込小學校同窓會に招待せられて壇上の人となる。

天香氏は新らしき生活の講演中にも此處で聞いた故五無齋事保科百助の獻身的事業、今日も七十歲近くの老人吉兵衛が青沼の生家から二里の街道を野澤町まで車を引いて無念無想の生活を送られてゐる事などを嘆稱されつゝ語る。

甞て讀賣新聞で日本百奇人を募集した時第一に當選した信州の奇人五無齋が今年十周忌になる。五無齋も天香氏を知つて地下でどんなに喜ばれやう。

演說は厭だと言はれる天香氏を無理に擔ぎ廻して行く社會の罪の恐ろしさを感じつゝも、やはり新らしき生活に隨喜して晝食後は千曲川を渡り泥中を揑ねて野澤町に入る。

天香氏の講演は野澤高等女學校で催された。同所にて佐久修身談話會の席上にも見え、氏の感想談には大部油が乘つた。

□

四日午前八時七分、中込驛發にて一行は小諸驛經過、上田市に着いた。午前は上田高等女學校にて一場の講演があつた。氏か今回の豫定は佐久丈で切り上げる害であつたが途中から演說先が定り、辭つてもその次ぎから次へと口がかゝつて來る。講演が終つた頃「チリ〳〵と電話」それは松本からであつた。電線に故障があつてかよく聞えぬが先生に是非松本へ來て下さいとある。來て下さい。はい、行きますと

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

厚意を無にしなかつたはよろしいが又日程が變る。そこへ小縣郡下西鹽田村の青年團長が押寄せて來て、御講演を願ひたいとの申込み、日程が定つてゐて駄目だと辭つても、顏丈でも見せてくれい、自動車でお迎へして時間を間に合はせますからとの少々無理の嘆願を承諾して明日それなら參る事となつた。實は日程に明日は午後から上山田へ行く事になつてゐるではないか。忙しいとも忙しい、大急行で午後からは小學校の方へと招かれた。

翌五日は齋藤氏宅にて希望者に揮毫などされてから飄然として午前九時半より約束の中學校の講演にまゐられた。天香氏は二人の同人を伴ひて定刻前に中學校へ行く……その後から一人の同人が學校の玄關から受附へ顏を出して、天香氏がお見えになりましたかとたづねると「演說のある事は聞いて居ります、そろ〳〵時間ですが未だお見えになりません」と答へるので、はて不思議と思ひつゝも何か托鉢でもさせてもらひませうと校内へ入つた。默つて耳を立てると生徒は今度の時間は何があるだらうとあまりの急の話で天香氏の演說がある事を知らずにゐるらしい。同人は時間が時間であるから氣が氣でなく再び受附へ來て天香氏さんがお見えになりましたかときくと未だ見えませんがお弟子さま達が前刻から見えて居ますとの事に、應接間の方を覗くと、これは見誤られるも尤だ……天香さんは紺の筒袖で前時から來てゐるつしやつた。

正午近く、約束の通り氏を迎への自動車がまゐり、夜來の雨の久振りで晴れた青空をながめつゝ、一行は上田橋を渡り、千曲川の西へと飛んだ。

歸途天香氏は藁二くびり程をもらひて潜かにこれを自動車に持ち込み、進行中平然として草鞋を作り始めた。

「あなたは草鞋が作れますか」

團長は恐縮した。

「どうぞ、作れるなら作つて下さい」

天香氏は丁寧にきかれたが、實は團長は草鞋が作れなかつた。學問があり、地方にあつて模範的人物の青年の好典型はよくかくして實例に見られる。果してこれが青年の指導者たるべきや否は別問題として、少くとも農村の生活をなさる方が、草鞋も作れなし、縄もなひない事は遺憾であると、話しつゝ天香氏はごし〳〵藁を運ばれた。

其の夜は上山田小學校に向ひて一場の講演あり、同地溫泉場に一泊の上、六日は戶倉驛より小諸驛に戻り、大和屋吳服店や佛教研究會の招きに應じた。夕方五時の汽車にて長野に向ひ、そこでは第一回目に知つて氏を迎へる長野高等女學校の一寄宿舍に齋藤氏を訪れ、再び舍生に面して一人〳〵にも胸に泌めた惱みや、將來の方針に就いて指導せられたが、天香氏の托鉢後舍生の氣持が一變して了つたさうである。

□

日本アルプスを眼近に見る頃、汽車は驛幾つか過ぎて七日朝松本に着いた。澁谷、百瀨女史等の出迎あり直ちに同地高等女學校に入る。同校には上田から別れて二日前に見えた同人の八田氏が托鉢された。その話によれば、氏が下駄箱の掃除にかゝると、生徒が直ぐ手傳つてくれる。掃除がすんで便所へ行つて見るともう數十の手がよろこんで托鉢して了つた後であつたと。一燈園の下座の德は一番下の誰にも出來る仕事から働かせてもらふのだから、同人が働かせてもらへば見るに見兼ねて生徒もじつと傍觀してゐられなくなつたんだと云ふ。上壇から掃除せよと命令的に出ればこれ程の功德は到底望まれるもので

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

ない。一燈園の生活はこれ位の結果があらうの何のと利益を豫期して居らぬが、自然さうした事になる所にありがたいものがある。

天香氏は例に從ひて講堂で同地に於ける始めての講演を終つた。實に滿場の女生徒は寸分も聽きもらすまいと、この哲人を注目した。氏の眼光は遍なく宇宙を微動するものゝ如く搖れる。生徒等の優しい容姿となまめかしい香りに、あの質素な紺の法衣は何と言ふ對照を持つたか、氏の演説には一種の敬虔なるさびさへ見えた。

午後二時よりは同地女子師範學校の講堂に一場の講演あり、多大の愛着を殘して深志城地に中學を訪問して期待せる若い男子の心膽に熱火を點じた。

七日の一夜あくれば翌九日である。午前十時より同地商業學校に天香氏獨特の經濟の講演があつた。氏が實業家出で、その經營せる事業の破滅から一身を捨てゝ精神界へ新らしい開懇地を建設されるに至つた動機は、どうしても動かす事の出來ない根據を持つてゐられる。人間は一度はどん底にころんで見なくては眞劍になれない。背水の陣を引いて何處からでもやつて來いと力み立つた氏に凡てを超越した世界を發見する事が出來た。

それよりは高等學校辯論部の招待に應じて氏は最も高遠なる思想の宣傳を致したやうだ。あの相應に教育を受けて、口角泡を飛ばす青年が盛んに論議せられるからには天香氏も負けて引き込まずには居られまいと思つたなれど、眞理は理窟には宿らなかつた。何れも氏の體驗を愛し且つ尊んだ。その經驗の前には如何なる讀書力も尻込みしたやうである。

雨後の松本平は秋の日影靜かに射して、辿る路傍に草の實も彈けた市の郊外から同心町に百瀬女史の寓居を訪れる。庭内のコスモス咲いて、此島の一隅からも花の名にふさはしく一行はどこやら世界的に響く心の共鳴があつた。新らしい生活はそこから生れて來るやうに見えた。

疲れと雨との旅で一行はやれ一安心したが、其の夜は又も女子師範の切なる願から紀念館にて天香氏の「祈り」に就いてのお話があつた。中にはうら若き女の身の涙抑へ切れずシク／＼感謝の念に充ちて泣くものも見えた。

翌九日朝、一行は、淺間の湯へ遊んだ時である。年寄の巡禮が、物哀れに御詠歌を歌つて戸毎を廻るのを呼び止めた。

「供養してあげやう」

それは一行の氣にとめなかつた天香氏のお慈悲である。爺さんも烟にまかれたやうな氣持ちで、鈴の音チリ／＼ついて來たはよかつたが溫泉宿の入口に現はれた時「出て行け」と、叱りとばされて了つた。が同人の嘆願でやう／＼上げて貰つた。ぼつ／＼托鉢させて頂いてゐる中に、宿屋の方でも一行の心がわかり、巡禮爺もお湯に入れてもらひ一座の興味を物語りに集めて齒のない口邊にあどけない笑みをこぼした。

一行は翌十日早朝上京したが、あの爺が最後に歌つた御詠歌は雨の旅路あはれに思ひ出の種となつてゐる。

（大正十年十月十二日記）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

返照録

岩○○○○姉（東京市外下戸塚）　（上略）私も此處（信州岩村田町圓滿寺）にて一週間餘になりましたが、一日一日が惜まれる程四人で極樂の樣な生活を致してをります。私は相變らず未明から起き出まして觀音堂でお經をあげて座禪致します。私がお經半ば一種の靜かな喜に入つてをるうちに、本堂から弟の打つ鐘の音が聞えて參ります。競爭してゐる樣だと兄と姉とが笑つてをります。時には二人で一緒に讀經も致します。食後午前中三時間は四人で座禪致します。私は妄想に惱まされて容易に三昧に入れません。然し今は一心に修業致してをります。此の頃漸く智識では信念は得られないものだといふ事を自發的に感ずる樣になりました。そして信念其物の如何に偉大であるか信念さへ得れば他は自ら具足するものと信ずる樣になりました。私の今の着目點は般若經に說かれてある空觀の悟道に御ざいます。生活の矛盾、內心と外界との矛盾に、朝夕惱まされ私はどうしても空觀に依つて信念に入らればならぬと思つて居ります、卽諸法實相の悟道に達して娑婆卽寂光土としてすべてを調和したものとして居られる境地に達するより外道は無い樣に思へます、それにはつまらぬ理屈などこれまではしてゐるより座禪修業に依る他は無いと思ひ初めました。

宗教的形式の尊さも此の頃は深く感ずる樣になりました。未明に獨り打つ鐘ゆらぐ燈明皆佛に對する深い祈りに導いて吳れます。自分獨りの安心立命ならずして苦業でも無く所謂の「有難や」でゐればよいかも知れません。然し人をも同じ安心に導くだけの信念に立つた安心立命でなければならぬと思ひますのでどうかして正しい信仰に入りたいと苦しんで居ります。同じく惱む友達や其の他一切の人々の上を思ふ時、すべてに對する憐みと申す樣な感じに自ら涙と共に、我等與衆生皆俱成佛道の祈りを捧げてをります。今日兄は急に姉を連れて善光寺へ參りました。弟と私とり殘されて座禪をしてをりました。午前中はさして變つた事もございませんでしたが、午後の四時半頃からまた夕の祈りを捧げ樣と觀音堂で一緒に讀經（やがて一時間）を致しました。終つた時は外はもうすつかり暗くなつて居りました。お線香を一本立つて　それがたつまでと、燈明を吹き消して座禪に入りました。私の心は不思議に靜まつて、頭は極度に冷靜になり、體は不動のまゝ益々正姿になつて參りました。殊に胸の邊が、張り切つた樣に思へました。其のうち私は何とも知らぬ莊嚴な感じの中にふと一切の迷つた人々惱んでゐる人々の姿を思ひ浮べました。そして自ら頭を下げる樣な懺悔とも云ふ可き感じに充たされました。そしてどうしても二人の前には佛樣がゐらつしやらればならぬといふ感じが致しました。私は早やせまい觀音堂には居ませんでした。何か漠々たる中に連れて來られた樣でした。然し猶弟が側に居る事も自分といふものがある事も明瞭すぎる程わかつて居りました。心は云ふに云はれぬ喜びに充ちて居りました。とパッと光つたものがある。驚いて氣がつきますと、それは先程のお線香が暗の中に光つて居たので御ざいました。然し其の時、不思議な事には、私が何時の間にか目を半開にして居た事で御ざいます。そして今までお線香の光を知らなかつた事で御ざいます。

此の座禪程、近頃嬉しかつた事は御さいま

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

せん。私のみならず弟も同じ狀態に居つたさうで、全く二人の心の狀態は一致でをりました。弟は今日特別念じて祈つたので其効が有つたかと深く佛樣に謝して喜んでをりました私は何にも一向存じませんが、今も猶非常な喜悅に充ちてをります。明朝また業をするのが待たれます。

こゝへ參りましてから、初めて山中の修業か必要だと思ひ初めました。是非一度は一切を遠離して修業したいと思ひます。然し私はまだ母が水に溺れるのを平凡として見てゐられる程偉くはなれませんから、卒業後はたとへ少しでも孝養をつくして後必ず山に入らうと思ひます。母の無い後は、私一身は別に何の責任も無い身ですから、すべてを捨つて佛と衆生に捧げるつもりで御ざいます。弟は此の堂に五十日間、朝から夜まで籠つて行を致しました。一心に其道を求める彼を見ますと羨しくもあり、また自分の曖昧な生活を口惜しくも存じますが、すべて人は與へられた境遇に或程度迄は順じて、徒に他の人々を悲しませるべきものでもないと思ひますから、私はあせみずくで一心に修業をして參らんと思つて居ります。

今は全く學校の事も家の事も忘れて自然の美に包まれ身心の清淨をはかるのみを事と致してをります。午後は多く寫經に費します。

此の手紙を書きかけてをります處へ「光」を御送りいたゞきました、誠に有り難う御ざいます。尊い西田先生初め皆樣の御生活御信念を思ひながらこれから、ゆつくり拜見致します。御送り下すつた先生の御慈悲を深く有り難く存じました。絕えず先生の御厄介になつてをります私の心の一般も申し上げたいと存じつい長くなりました。(中桐氏宛)

●市川新升兄(大阪市)　御不沙汰いたしました。私は今北海道にをります。昨日色內町の本屋でふと『懺悔の生活』が有りましたので買ひました。貴君樣に初めて御目にかゝりましたのは明治卅一年の七月札幌でした其の北海道で貴君樣の本を買うのも深い因緣有る事と思はれます私は廿五日あたりより札幌へまゐりましてそれより旭川函館へ行きます暑さのみぎり御身御大切に。早々。(天香氏宛)

●菅學能兄(岡山市船頭町妙勝寺境內稻荷堂)

止み難い心から先生に御無禮な願ひの手紙を認めます。どうか不躾をお許し下さい。

私は夙に先生の御名を憬慕し、併せて先生の聖大なる御生活を深く尊敬し禮拜してゐる者であります。そして私自身も先生と同じい道に生きることを念じ、今漸くその決定の心を固め得た處の者で御座います。

折しも、皆敬慕する先生の懺悔の生活の御高著が世に出たことを知りました。御本の廣告を新聞紙上で見ました時から、先生の言葉に接したい切なる願ひに私の心は燃えてゐたのでございます。だがひとりの老母に養はれて窮乏の生活を送つてゐる私にはそれを購ふ事が出來がたいのです。得難いものと知る故に益思慕の念は募ります。今日まで新聞の廣告によつて御高著の內容を拜しまして何ともいへない心切なさをおぼえました。渴した者の水を索め、與へたものゝ食を思ふ心です私は遂にこの心を先生に申上げて、御高著を頂かして貰はうと思ひまして、この失禮な手紙を書きました。若し私の願ひの御心に叶ふて御惠與に預ることが出來ますなら、どんなに喜ばしいかぎりが知れません。右謹で御願申上ます。

私は本年三十歲になる不具癈疾の男です。生れは伊豫の國で、私の父は日蓮宗の僧侶です私は寺に生れて幼時は平和に生ひ立ちましたが、十二の年に人の厭み嫌ふ惡疾を患ふて爾來年と共に病勢は進み、次第に身體の自由は失はれて終に四五年以前からは自分用も辯

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

じ難い全くの癈人となつてしまつたので御座います。然し私は肉體に亡びても魂に生きました。現在に於ては全き安心を得、信仰裡に生き、佛の慈光に浴して感謝の生活を送つてをります。この私がこゝに來るまでの道理には隨分深刻悲痛な生を體驗致しました。神を怨み生を咀ふ暗い心の中をも通りました、死を願ふたしかも死を許されない苦しい心も切實に味ひ知りました。私は父の爲には老後の獨り子で、父は肉體的に亡びた私をも倚力とたのみ、たゞ一つの生きる慰めとする程に深く私を愛してゐました、私はこの老いて不遇な父故に生きがたい世をこらへて來たのでありました。その父は七十七歳を以て一昨年の秋にこの世を去りました。父を見送つて私の務めは果てました今一人の母はありますが、母には私の異父兄があつてそこに歸りゆくべき身、今では私ある故に老いの身を旅の空に生き惱む身の上です。ですから母の餘生については父ほどに深く思ひ煩ひません。それで私は昨春父の百ヶ日忌を濟すと共に死を決意して自滅を圖りました。そして五十日ほどの斷食を續けたので御座います。私は死を以て人間の歸省する最も幸福な狀態と確く信じてゐましたので、其時より何等の不安も悲哀もなく、靜かなよろこびを湛へて一歩〳〵死の方へ近づいて行きました。然るに不思議や肉體が衰へゆくに連れて、精神は反つて澄み透り次第に力の湧き出づるのを感じるやうになりました。斷食の半ば頃に至つて魂は全く淨まりさながら生れ更つたものゝやう、また嬰兒の純眞にかへつたやう、死に近づけば近づくほどいよ〳〵精神は高揚して、深いよろこびと感謝の念ひが全心をゆり動かして內から溢れ出ました。それ法悅といつていゝか聖靈の歡びと云つていゝか、たゞ何とはなしにありがたい忝けない心持です。さうして、死のごく間近まで來た時、私は光り耀く莊嚴な世界を見たので御座います。すべてのものが光りかゞやいて見えました。その光りにつゝまれて自分もともに光り輝く身であることを明らかに感じました、その莊嚴な心の狀態は私の拙い筆では迚もその萬分の一をも表現することは出來ません。私はその時から小さい自分の無限大に擴がりゆくのを感じ、同時に天地に充ち渡るあるものゝ意志を明らかに味識し、ハツキリと神の心を感謝したのでありました。一の石一の木葉の末には生きたる神のこゝろの宿つてゐることを身を以て感じ識つたので御座います。

聖なる光にしたれて私は新らしい世に甦りそして全き救ひに入りました。そこにいたつて過去を顧れば、私は一生も無意味ではない今こそ生きてこの魂を世に遺さう。今よりの自分は不滅のものにふれ無限のものに連なつてゐる、それを生かさう。よしこの自分はいかに小さきものであつても、たゞ眞實のものである事を信じる、それを書いて世に止めよう。何かの機會に私の魂が幾人かの人の魂に宿つたなら、そこに自分は永遠に生きるのでかく信じまして、私はそれから自叙傳の稿を起して書きはじめました。實際その時の私にはつきない泉のやうにあふるゝ、思想が湧き出でました。自力以上のものが私にある事を感じて、それに勇氣づけられ、二ヶ月ほどはすべてを忘れて熱心に創作に從事致しましたが、不幸にしてまもなく極度の神經衰弱に襲はれ全然此をこはしてしまつたので中途は筆を擲つの止むなきに至りました。いつか再びあの時の透徹した頭と、溢れる思想の還つて來ようかと待つ心でをりましたがそれは到底望みないことを今では知りました。だがこのまゝ空しく終ることも遺憾に思はれます。只今では専ら懺悔滅罪の祈りを捧げて日を送つてゐるのでありますが、出來ることなら許さ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

れた範圍に於て自分を生かしてみたいのです。神に捧げた命を以て社會人類に奉仕したいのです。そしてあはよくば惱める人々の救ひに到る機緣ともなり、緣となり、力となり慰めともなるやうな道にゆきたいと思ひます

それで一切を棄てゝ旅に出で、行乞して歩かうと決意したので御座います。

　私は惡疾者でありますが、然し病の症狀に運動神經の障害が主でありまして、皮膚の方にはさして異狀はありませんから、つゝしみぶかく生きてゆく分には社會に害毒を流す事はなからうと信じられます。人に嫌惡と不快を與ふるのは罪惡だと觀じてゐますからこの點についても反省し、人に不快を與へないやうな生き方をしようとその覺悟も定めて出でゆくつもりなのであります。

　母は六十九になります。現在に於ては他家に傭はれなどに行つて私を扶養してくれてゐるのでございます。廣島に私の異父兄が居りますから、私の旅に出る日は母はそこに歸つて貰ふつもりでをります。よろこびを以て自己を生かす道にゆき、最後を光りあらしめて終りを完ふする爲私の願ひの心を說いて、今母に理解を求めてゐる處であります。母には喘息の持病がありまして、毎年初秋の頃に一度發病致します。その時に醫療は受けず、私が注射などして治療するのが、これまで永年の例でしたから、今年も最後に今一度母の病を保護して、その癒ゆるを待つて出發しようと考へてをります。最初はまづ東京を目指をてゆかうと思つてをります。東京には且て私に兄事して呉れてゐた二三の青年がありますので、母の心を安んずることが出來ると思ふからであります。上京の際は先生の所をも訪ふて、いろんな風に接したいものと今からそれをたのしんでをります。

　私は人々の菩提心に賴り、供養を受けて、僅かに生命を保つて行きたいと念じてをりますが、餓えることもまたいとひますん。餓えといふ事については十分の修行を經てをりますからそれはすこしも怖れません。私はいかなることをも耐へ忍ぶ勇氣は持つてをります。すべては神のみ心のまゝに。どこの野末に命を終らうとも露うらみとは思ひません。最後の瞬間まで感謝は念に失くしないつもけであります。

　あくまで謙遜にあくまで度しく、そして眞心を生かしてゆくならば、光りなき身の私にも人々の菩提心を呼びさます仕事は成ざれてゆくやうに存ぜられます。私はそれが與へられた自分の使命であつたといふ氣が致すので御座います。

　先生。どうかこのいと小さき者なる私を、道に於ける弟子としてお導き下さいませ。慌しくみだれま手紙をさし上げる事を甚だ恐縮に存じます御寛容をた願ひます。（天香氏宛）

●富永とを子（福岡縣糸島郡周船寺村）　凉しい風通しの好い二階の部室にねそべつてあなたの「懺悔の生活」を讀んで居ましたまた半分も實は讀んで居ないのですけど何だか苦しくなつて參りました。

　筆をとらずには居られなくなりました。

　先生私は自分の深かい禍根の上に安住して無爲に、否多くの眼に見えぬ罪を方々に波紋のやうに擴がせながら其れでも當然の事のやうに怠惰と安喩の中に暮して居る自分が怖しくなりました。

　怖ろしい。すまない氣がどうする事も出來ぬ程むら〳〵と靈の魚から湧いて參ります。先生ほんとうの事を申さして下さいませ。

　これでも私は愛を唱へて居ました。道を口にして自身も眞面目に考へもし出來る事は出來るだけ實行しなければならぬ事を識つて居ると自惚れて居ました生出來の讀書好。其れにある虚榮もまじつて娘としては不相應な書架

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

と藏書を樂しむで居ました道は。正しさは。あくまで求める。求めればならぬ然し此の怖ろしい罪業と禍根を蓄へて居る現在の安易な生活から逃れる事はあくまで執着を持つて居る。持つて居ないと言ひましても只今まで戀々不當な幸福と(世間的)安喩に帖然と安住して居ましたのは其の何よりも有力な證據でなくて何でせう。

これ程までに無條件的に愛して吳れる親兄弟に叛くのは何よりも恐ろしい罰を思はせると言つたやうな内心の紛飾された辨解を自分自身でさへどんなに御都合的なものであるかを實は充分識りすぎて居るのでございます。

其の癖。私は恐ろしくなりました、憎くなりました、誰よりも一番罪深い、怠けもの丶自分が。

先生往くべき路は實にはつきりして居る——と私は度々深いため息を吐きました、其れで居て今日までかうして醜い罪深い生活を續けて居る——

其れは何故でせう。先生あの御本にお教へ下さいました幾本かの我慢の綱——截つたか截たないか其れは識らないけれど只最後の一條と言つて下さいました。

『所有慾』のこれが最後のこれを絶ち切らない因業故である事を今更の樣にはつきり衝き當りましたお憐れみ下さいまし。道を——お光りを萬卷の書で解決すると思つた。愚かさは彌が上にも高い思索の嶺にのみある徒らに苦しみもがいた憐れさ。退つた道德の美名を循に自分の卑しさと醜さ、否もつと〳〵堪えられぬばかりの罷業の身に甘へんとした怖ろしさ。

其れをしみ〴〵と感じて居ます。そして罪の聯鎖の至る處を考へさせられて居ます。

先生は絶體の權威を持つて『今だ』と仰言つて下さいます先生ほんとうに今でなくては恐ろしい惡魔が魅入ります私は强くなれました

お光りの下に走る事以外に正しい路のない事をそれによりて綱のやうに擴がつた罪業の一條づゝか截れて行く事を。不孝と罵る聲、これ程の親の愛が分らぬかと哭しむ肉親の聲が暫てはお光の御前に心も靈も跪いて禮拜讃美のよろこびと化する事を先生私をお助け下さいませ。

そして信仰厚き皆樣とお光の前に懺悔し感謝しそしてお光りの前に捧ぐるせめてもの御供物として働く事をお許し下さいまし思ひあまりて遂ひに筆をとりました。御無禮の段は何卒お許し下さいませ。(天香氏宛)

○編輯者より

○本號表紙の題字は明慧上人眞筆善財知識章○○○○より頂きました。京都栂尾高山寺所藏の原本から、今津洪嶽師が影寫して下さいましたものです。こゝに御禮を申上げます。

○本誌の編輯ぶりにつきては、いろ〳〵の御注文がありますので、それ等を折衷し、變革を試みたいと思うてをりましたが、準備が間に合ひませんので、それは次號からに致しました。さやう御諒恕を願ひます。なほ編輯及びその他に關しても、御思召御遠慮なく御洩し下さらば幸甚に存じます。

大正十年十月十二日印刷
大正十年十月十五日發行 (代金二十錢)

東京市牛込區原町三丁目五十三番地
編輯兼發行者 中桐確太郎

東京市神田區仲猿樂町十七番地
中外印刷株式會社代表者
印刷者 渡邊市太郎

東京市牛込區原町三丁目五十三番地
發行所 東京宣光社

○振替口座東京五七六七一番(牛込原町三ノ五三、中桐確太郎)
○郵便爲替にて御送金の方は「牛込若松町局」指定に願ひます。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

現代生活と見神の意義

中桐確太郎

綱島梁川君は一燈園に因緣淺からぬ方であります。此度其の第十五周年紀念講演會を本郷教會に開きましたがその際私も致しましたものゝ速記です。當日時間の都合上、はしよツて申述べましたから、此度、御勸めに從て此に掲載することになりましたを幸ひ增補をも致したいと思ひましたが遂にそれも出來ぬ事になりました。それに前口上など一二削つた箇所も御座います。どうぞ御諒恕給はり、何卒御批評のほど願上げます。

綱島梁川君の一生に於ける至上點（カルミネーション）とも申すべきは、君自からも、或處で述べて居られた樣に、所謂る見神の實驗でありませう。神を見たといふ實驗を爲した事が、梁川君の精神的生活の頂上に達した處であらうと思ひます。

梁川君の御友達の皆認めてをります通り、君は非常に忠實な、自から欺かない人であります。其上に理性の非常に優れた人でありました。尤も十四五歲位に基督教の洗禮を受けて、神を信じ、神に對する憧憬の誠を捧げて居られたのでありますが、神を此世に目のあたり見ると云ふ事は、到底出來ない事であると云ふ風に考へて居られました。それは日記の中や、手紙の中にも現はれて居りますが。明治三十四年十月六日附で、私共五六人に宛て下さつた手紙の一節に次の樣な事があります。これは私に關係あります事でしたから、よく記憶して居ります。私は其頃、見神の必要を說いて居りましたが、中桐の見神といふ意義はよく聽いて調べて見なければ判らないが、自分の考へを申述べて見れば、かう云ふ事になると云ふ樣な順序の下に書いて御座います。

かりに愚見の要を申候へば、神は到底如實に見るを容さざるものかと存ぜられ候。こは自我を全然超越し盡し能はざるを本性とする吾等の先天の運命と存じ候。一躍神と面接するは到底吾等には出來まじき事にはあらざるか。神は讀まれ得べきものにして見られ得べき者に非ずと存じ候。

と云ふ樣な言葉があります。神は到底目の當り見ろ事は出來ないものである。かう云ふ御意見を發表されて居りました。これは其當時抱かれてをつた一個の認識論から來た議論で御座います。お心の中には常に神に對して景慕の念を抱いては居られたが、理性の聲に從て、神は見る事は出來ぬと云ふ樣に考へて居られたのであります。智識の上よりしては、かゝる有樣でありましたが、一方に於て、長い間患らつてをられた病は彌々進み、死と云ふものゝ姿を見らるゝに及び、遂に神を見ると云ふ實驗をなさるゝに至つたのだらうと思ひます。

私は梁川君の見神の實驗には、不起の病、死、といふこと

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

が、主もなる關係を有してをると信じます。併しながら、此見神の實驗を發表せられた當時の或る批評家の言の如く、病を機緣としたるが故に、凡てが皆病的であると、一概に批評し去る事は出來ないものだと思ひます。人間は健康である爲に、又戰鬪的氣分になつてをる爲に、氣付かなくてはならない事を氣付かずに濟ます事が往々あります。病理學上から見ると、病菌が腦を冒す事によつて現はれたる幻想たるに過ぎぬなどいふ批評があるかも知れませんが、病氣になつた爲に氣付かなくてはならない事を氣付く樣になつたのならば、それは却つて感謝すべきことかもしれません。昔者ソークラテースが罪に問はれ、毒藥を仰いで今死ぬといふ時に、私は今刑に服して死ぬのであるが、死んで行く私が眞に幸福であるか、或は生き殘つて居る諸君が幸福であるかは、神のみが之を知り給ふと、申しましたが、病氣をした方が仕合はせか否かは、かう云ふ場合には、問題になると思ひます。

病が機緣となつてかう云ふ樣な大なる實驗をなされた事は死と云ふものを正面に見られたからであります。梁川君は十四五歲の頃から、死と云ふ事を考へて居られましたさうです靜かなる夜、天空に輝やく星などを見て、我は死んだならば、どうなる事であらうか、と云ふ樣な想ひに耽けられたさうであります。そんな風にして死を考へられた事はありましたがそれは死の眞の姿ではなかつたかと思ひます。自殺と云ふことも多くの場合、眞の死の姿を見る事は出來ません。自殺は自分で自分を殺すのであつて、殺す自分は死なぬのであるから、死の眞の姿は分るものではなからうと思ひます。けれども、到底快復の見込はないと云ふ事を覺悟した病者には、死は時として其の眞相を現はして來ることがあるのであります。

肉體は死すべきものであります。人生僅か五十年、七十は古來稀なりと申します。よしや百二十五歲迄生きるとするも遂には死なねばなりません。死は人にとりて必然の運命でありまして、今更ながら驚くべきものではないのでありますが、死と云ふものゝ姿を見て、特別に心に動搖を感ずると云ふ事は、是れは單に、肉體の死と云ふ事ではなく、靈の錯愕から來る問題であらうと思ひます。

靈魂は私共の信ずる所に據りますれば、死なないものであります。死は靈魂には無いと思ひます。でありますから、本當の立場から申せば、死などは知らない方が自然であります。をさな子は死は知りません、本當の天國の民の如きをさな子には死は苦勞にはなりません。ウオツヴウオースにさう云ふ歌がございましたやうです。所が人間と云ふものには、何時如何にして出來て來たか知りませんが、知識と云ふものが存在するやうになりました。そして、その知識で靈魂は死なないものであると云ふ事實を否定して、人間は肉體と共に死すべきものであると云ふ事を考へる樣になりました。然かもさう云ふ知識が更に、身體の健康の爲に忘れられて居る事が常であります。靈魂の不死といふ事實は、かく

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

りて、覆はれてをります。一つの幕は肉體と共に死ぬだらうと云ふ知識の幕であります。も一つは、その死ぬだらうと云ふことをも忘れしむる一つの幕であります。

人間が若し、肉體の死と共に全く滅び去つてしまふものならば、肉體の死を明かに認めた時に、惱みを感ずる事が無い**筈であります。惱みといふことは、出來得べき筈のことが、**出來得ざるを見た場合に感ずるものであります。眞に出來ざる事を、出來得ずと見た場合には人間は諦めるのが常であります。諦めも一種の安心であります。故に世の中には、人は肉體と共に滅ぶるもの也と信じて諦め、そこに安心してをる人もあります。此の安心の價値を論ずるは今の問題ではありませんが、此の如き諦めに立ちて安心しつゝある人は、往々肉體の死を知つて、なほ惱みつゝある人を見、それは肉體に對する執着の名殘なりと一概に批評し去ることがありますが此の如き批評は、人間の實驗上の事實を悉く蔽ふことは出來ません。眞に惱みを經驗したる者は、その惱みは肉體に對する執着より來るものではなくて、も少し深き根源より來るものなることを感ずるものであります。乃ち仔細に之を觀察して參ります時、そこに靈の問題にふれるのであります。

然らばその惱みは、如何にして出で來るのであるか。靈、靈なる我は本來滅びざるものである。然れども人間の智識は肉體の死と共に、我も全く滅び去るものと思ふ。こゝに靈の不平があり、不滿がある。どうかして、知識の幕を破りて、其不滅なる眞相を明かにしたいと思ふのである。それが開きぬ場合には、さらに無限の惱みが生ずるのである。病氣、死といふことによりて、人間は死すべきものであるといふ知識を蔽うてをる第一の幕が破られたのでありますが、更らに人間は死すべきものとする知識の幕が破られれば、**靈は惱むのである。**如何にして此の第二の幕を破るべきか。禪などもその一つの方法でありますが、死の眞との姿を見ることも、また此幕を破ぶるの一法であります。何となれば、死の眞相を見る時、人間の我執は破れた時であります。我執が破れた時は即ち知識の幕の破れた時であります。知識の幕の破れた時靈の不朽なる姿はそこに露堂々として現はれて參ります。靈は此の如くにして、その惱みより救はるゝ事が出來ます。

不治の病に依りて死の眞の姿を見、第一第二の幕が破れて靈を見、神を見る事になります。勿論、かう云ふ様な狀態になつてゐる者の中には、時としては病的變態を生ずる事がありませう。けれども、總ての場合に於て、それが病的であると云ふ事は餘り大膽なる速斷であらうと思ひます。今、梁川君の場合に就いて見まするに、君は自ら欺かざる性質の人であり、理性を非常に重んぜられた人でありますから、一度見神の實驗をなされた場合にも輕々しく肯定する事はありませんでした。君は其理性に對する態度を言明してをられます。

予は理性の權能を敬する事を知る。予は曾て（少くも意識して）理性の要求を壓したる事あらず、理性の要求を塞

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

して僅かに立つが如き信念と云ふべからず信念は正さに全人上の事なるべきなり。眞個の信念は自家人格の分裂を賭して贏ち得べきに非ず。予は予の理性の光りをして、常に倍々活潑に、堅實に、發越照著せしめん事を期すこれ予が一貫の態度也、又態度たるべき也。

見神の場合に於ける君は、亦復、嚴正に此の態度を取られその實驗し得たる見神は果して病的の幻象であるまいかと、幾度も點檢せられたのである。そして『予は予が眞理を天下に發表する迄には幾多時、覃思精慮を經たる也』と云うて居られます。是は決していゝかげんの告白ではありません。梁川君の見神の實驗を報告されたのは明治三十七年の頃で御座いますが、日記や書翰集を讀んでみますと、三十年頃にも同樣な經驗をして居られます。爾來幾度か陶冶し、幾度か精錬し『あゝわが見神の眞理はわが冷靜なる幾番の回想、幾番の省察、幾番の批評の鋒に研き磨かれ、て今や精金美玉と輝きぬ。』と自からも申されてをるが如く、實に立派な信念となつたのであります。どこから見ても迷信などといふべきものではないと思ひます。

抑ゝ迷信とは何であるかと云ふと、隨分六ケ敷事でありますが、私は假りに定義を下して、直覺的の經驗もなく、論理的の批判も經ず、多くは我欲我利の念よりして、事實でない事を事實として信ずる事と申しておきます。若し此の定義が大なる誤謬がないとするならば、梁川君の見神の實驗は何れより見るも、迷信といふべき何物もないと思ひます。

梁川君が、よく愛誦してをられました白隱禪師の語に『大凡三世十方の間に見性せざるの佛祖なく、見性せざるの賢聖はなき事なり』と云ふことがあります。見神の眞理は凡ての宗教の根抵に横たはつて居ります。どんな宗教家でも一度は見神の實驗に逢うて居られる。其の實驗に參するとが出來たのである。是が病的現象であつてはならぬからと云うて、頻りに省察し點檢して、遂に立派なものと研きなし、凡ての宗教家に通じて、障りのないものを得られたのであります。

綱島君の見神の實驗が如何なるものであるかと云ふことは君が自からお書きになつたものの中に、美はしき言葉で描かれてをりますが、さて斯う云ふ樣な見神の實驗が現代の宗教的生活に於て、如何なる關係を以て居るかといふことを、少しく考へて見たいと思ひます。

梁川君も申されて居る樣に、『見神の一義は唯だ見神其ものにして終はらず、枯れず、更に豐富なる客觀的新生命を開發し來つて、無窮向上の緣となり、少くとも宗教的新生活に入らしむる確實なる一關門』であります。即ち梁川君に取つての新生活は、見神に依て生れた法悅を同胞に傳へると云ふにありました。即ち『わが靈魂は起つて神を讚美し、汝の自覺を汝の同胞に傳へよとの尊き使命の聲を聽きぬ。われは正に第一の産みの苦しみを爲し了へたり、今や第二の産みの苦しみを做すべきなり』といはれてをるのであります。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

一體かう云ふ様な見神の實驗、其他色々の言葉で言ひ表はされて居る徹底的大悟をした者の境涯には必ず一つの新天地が開けてくるやうであります。即ち此儘、此世界が寂光の淨土であり、極樂の天國であり又天國であると感ずる様であり**ます。けれども顧みて現實の世界を見ますと、此世は苦悩の穢土であります、涙の谷であります、一方に於て大悟徹底し**てみると、實に美はしい天地であるに拘らず、實際の世相を見ると、猶如火宅であります。矛盾した様でありますが、大悟徹底した人には、此二つの世界が存在して居ります。如何にかして此の世をば天國淨土にしたいと云ふ事の願ひは、凡ての宗教家に通じて現はれて居る祈願であります。

かう云ふ様な經驗は、實際、梁川君も體驗せられて居つた様です。たしか回光錄の『如是我證』といふ一篇の中であつたかと思ひます、此二つの境涯が誠に美はしい言葉で梁川式に言表はされてあります。又之を約して『神と偕に樂しみ、神と偕に働く』と云ふ言葉に攝せられて居ります。『神と偕に樂しむ』と云ふ事に於て、此世界が此儘、天國淨土であるといふ樂しき法悅を味はうて居らるゝことが見えるのでありますが、一方を顧ると、現實は云ふに云はれぬ苦悩の世の中である。どうかして之を少しでも早く理想に近づけなければならぬ。之を『神と偕に働く』と云ふ語で表はしてをられます。

法悅と云ふ言葉は、主として『神と偕に樂しむ』と云ふ方を意味して居るかと思ひます。その如何に深い宗教的體驗に出づるものなるかは、その境地に住し得るもののみ、獨り參し得る所でありませう。此事については是れ以上申述ぶることは私の分際ではないと思ひます。

梁川君は『神と偕に働く』と云ふ事に、自分の天職を結びつ**けて、此の法悅を、博く同胞に傳へると云ふ事にせられて居ります。併し『神と偕に働く』**と云ふ事は、見様によりては、いろ〳〵の形式を取つて實際に現はれて居ります。今これを假りに二つに分類してみました。

即ち宗教家の事業には二つあります。其一つは自分が其立場に立つて、他の人を自分の立場まで導いてくる事で、其の實際の働きとしては、說教或は文筆などの方便に依て導くことであります。梁川君の執られた立場は是でありませう。又さう云ふ具合に論說や、言葉では本當の所に達しられないと云ふ所から禪と云ふやうなものが工夫されました。併し何れにしましても、未だ其立場に達しない人を導いてくるのを目的としてをる事業であります。此等に對するも一つの事業は、他の要求に應じて此方から身體をもつて行くことであります。即ち其の要求を滿足させつゝ導いて行くと云ふ遣り方であります。即ち病氣を治してあげたり、貧困を救うてあげたりする事などであります。一燈園の托鉢とか、懺悔奉仕とかいふとも、此方に屬することですが、此事業の現はれ方は個人的にあらはるゝ場合も社會的に現はるゝ場合もあります。救世軍や矯風會の仕事などは、此大仕掛のものでありませう。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

此宗教の二つの事業は如何なる場合にでも、常に存在してをりますが、その現はれ方には、時代によりて消長があります。實例に就いて申しますれば、歐羅巴の中世紀、久しく羅馬教會の教政の下に壓伏せられてをつた知識欲は、回教の物質的文明によりて刺戟せられて、大に勃興し、知識は只實驗と觀察とにより研究して行く事に依て成立つものであると云ふ事になり、其結果科學は愈々興隆し、コペルニカスの太陽中心説が出て來て神學上の系統に少なからざる動揺を來すことになり、引いては、これまでの信仰にも變動を及ぼし、かくて科學はます／＼長足の進歩をなし、遂には十九世紀にダルウヰンの進化説が現はれ、是まで人間中心であつたものが顚覆される様になり、哲學上の思想に一大革命を與へたのであります。殊に前古未曾有の物質的文明の繁榮は、科學發達の結果でありますので、知識の勢力は何物をも壓倒する様になりました。玆に於て宗教家も亦之に妥協し、凡てを科學的に説明し去り、神祕的經驗とか、直覺的態度と云ふ様な事は、すべて閑却し去り、只惴々として、迷信と謂はれざらんことを努めてをる様であります。基督教でも、佛教でも、かくの如くして、宗教の根本生命といふべきもの迄も、失ひ去つてしまうた様なことになりました。勿論これ等は概論でありまして既成大宗教のことですから、流石に立派なる除外例の存するとは申すまでもありませんが、概して申せばさう云ふ風に云うて可いかと思ひます。

以上は宗教的事業の一つの方面から見たのでありますが、も一つの他の要求に應じて行く方面から見ても、同様なる趣があります。即ち科學の發達の結果、蒸汽機關を始めとして色々の機械が發明され、交通にも、産業制度の上にも、其他種々の生活の上にも諸種の大改革が起り、社會の有機的であると云ふ事實が一層深く感ぜられ、宗教の事業も大仕掛けとなり、大仕掛けの下に多人數の要求に應ずると云ふ事になつて來ました。其結果、個人的に指導するを要する靈の問題なども、自然に閑却される様になりました。

宗教の事業は、國家社會の施設と異ひます。病氣を治しただけで、靈に關した要求の何物をも與へる事が出來なければそれは、宗教的に無意味である。只病氣を治すと云ふ事柄丈ではそれはお醫者さんの御手傳へに過ぎぬ。學校を建て職業教育を授けても、靈の方面を開拓して行くことを忘るゝならば、本當の宗教事業と云ふ事は出來ません。孤兒院を建てゝ孤兒を立派の人間に仕立てて行くと云ふ事は結構の事ですが、却て更に澤山の孤兒を作るの因を造るが如きものであつては、眞の宗教事業と云ふ事は出來ないかと思ひます。近頃所謂社會事業なるものが起つて來て、宗教家の事業として講習會を催し、或は研究會が開かれます。何れも結構のことでありますが、本當の宗教の仕事となる事が出來るか否かは問題であります。手傳うてやらなければ、國家が一向手が廻らないから、手傳ひをすると云ふならば、それでもよろしいが

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

單に物質の要求の滿足に止らず、更に靈の要求をも滿たし得るものが、果して幾個あるかは疑問であります。

要するに、舊來の諸大宗教の多くは、理智に妥協し、功利の念に囚はれて、宗教的事業の生命とも云ふべき靈の問題を**閑却して居るかと思ひます。概して論ずれば、さう云ふ樣に思はれます。その結果は種々の形に於ける新宗教の現出となつて參りました。**大本教を始めとして、多くの新宗教は孰れも既成の大宗教が其生命を忘れてしまつた結果として現はれて來たものだと思ひます。梁川君の言葉に結び附けて申せば『神と偕に樂しみ、神と偕に働く』と云ふ此の二つの中の根本たる『神と偕に樂しむ』と云ふ法悅境を開拓する事を忘れた結果ではないかと思ひます。「法悅は不斷の見神なり」といはば、見神の實驗を閑却するに至つた結果であらうと思ひます。之に就いては詳しい説明を要するかと思ひますが、時間も差せまりましたので是丈に止めて置きます。

法悅の何であるかと云ふ事は、今私の申上くべき限りではないと思ひますが。要するに、私共の所謂お光りと申すものと一つになつた所より湧き溢れ來るものでありませう。私は思ひます。如何なる形に現はれてをる宗教でも、果して本當に根底から人を動かす力があるならば、此のお光りを、其の根底に有して居るものと云うても差支ありますまい。大本教にしても、あの位多くの人を動かすのに虛僞ばかりではないと思ひます。必ずや其根底には、何かの生命があるかも知れません。日本には其外にもいろいろの宗教が新に起つて參りましたやうですが、よく調べて見ますならば、必ずや人を動かす處に何か本當の光りがあると思ひます。其光りが人間を通じてくるのでありまして——いつでも私は例に引きますが

——太陽の光りが空氣或は水を通して來る時の樣に、人間の經驗と云ふものを通して現はれて來る場合には、どうしても屈折して來る。人間の意識を通し來ることによりて屈折し、また肉體に依て現はして行く場合には更に屈折します。釋尊や、キリストでも——之を人間に引下して、敢て申させて頂くなら——其遺傳、教育、境遇等の影響を免れませんことでありますから、如何に純眞なお光りでありましても、多少の屈折は免るゝことを得ないと、私は思ひます。既にかやうでありますから、此の光りを人間の知識の組織に乘せ、又種々の事業に體現して行く時、屈折することは、どうしても避くべからざる必然の運命でありませう。故に多少の屈折は致し方ないが、只其屈折率に囚はれて、若しくは光りの分折に依て現はれて來る色々の色彩に目眩みて、其の本源の光を忘れるとき禍がそこに現はれて來るのであります。本當の光りを見た人からは、屈折の仕方はどうであつても、光りは光りでありますのに拘らず、其の屈折の仕方に囚はれて、葛藤や紛擾を惹起すと云ふ事は、禍の種子であります。此頃現はれて來る宗教にも、光りはあるに相違ありませんが、其屈折若しくは色彩に囚はれて、其れをのみ本當と考へたり、お粗末の

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

知識などを通して來る不思議の屈折などを見て眩亂昏倒して、その本源を忘れてるといふやうな事がありとしますならば、邪教淫祀などといはるゝ所以が、そこに存するのでありませう。それ故一番大切な肝要な事は本源の無碍光を其屈折率の捕はれから救つて行くと云ふ處にあると思ひます。

昔ミケランゼロと云ふ美術家がありました。或日、野に出て大きな大理石の塊を見て、叫んで申しまするには、『彼處に、彼の石塊の中に、天の使が囚へられて居る、私は行つて之を救ひ出さなければならない』と。そして彼は鑿をもつて駈けて行つて、立派な天使の像を刻みあげたと云ふ事であります。此の大美術家ミケランゼロは立派に天の使を彫り出す事が出來ましたが、此の天の使を現はすに用ゐた大理石に伴ふ不便不都合より免るゝことは出來ませんでしたらう。梁川君が見神の實驗をされたに就いては、理性の鋭を鋒先き以て彫まれ磨かれて、少しの囚はれもないものにしやうとしたのでありませうが、如何にしても、君の一生の經驗に伴ふ或不便から免がれる事は出來ませんでしたに相違ありません。併しながら、それは兎に角と致しまして、略ば完成した天使の像を作り上げられたとは事實といはねばなりません。

想ふに現代の要求は天使を見たいといふことにあります。天の使は石の塊に包まれて居ります。どうかして之を救ひ出し、其美はしき姿を見たいと思ふのであります。熱烈なる願より、不完全なるまゝでもよい、奇形怪相でもかまはない。とにかく之を拜みたいと焦せるものもあると同時に、一方にはまた餘りに奇形異容であるからというて、之を一も二もなく排斥してをるものもあります。此の時に當つて梁川君の磨きた上げ像を、此要求のある所にもつて來たならば、總ての要求を滿足さする事が出來るかと思ひます。尤もその『神と偕に働く』と云ふ事に關しては、梁川君の研究はなほ未だ端緒を開いたに過ぎぬと思ひます。これは梁川君を慕ひ、その事業を繼いでゆかうと思はるゝ方の、大に努力せらるべき方面であらうと思ひますが、その根本ともいふべき『神と偕に樂しむ』といふ法悅の方面に就いては、梁川君は至極の所まで至つてをられたことと思ひます。私はさう云ふ風に信じますが、お亡くなりになつて十五年の今日に至つて、見神の實驗に就て苦しまれ、理性に依つて研き上げられた經驗を追憶して、感激今更に新たなるものがあります。幸に春秋社ではその全集を發行される企てがあると云ふ事で、これは非常に結構の事と思ひます。もう私などよりも十分に御研究の積んだ方もありますと同時に、なほ綱島梁川と云ふ方は綱島牧師のお父さんですかと云うて尋ねられた方もある位でありますから、見神の意義を更に再び考究し、その實驗を新らしく研究すると云ふ事は、現代の宗教的生活に取つて有意義の事であらうと思ひます。大急ぎで述べましたので一層不完全になりました。此の不束な話しに對して、靜聽をたまはりました事を謹みて御禮申上げます。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

一燈園 西田天香著

懺悔の生活

——好評四十三版——

四六版四百三十頁
背布函入堅牢美本
コロタイプ版二葉
定價金貳圓五拾錢
送料金拾四錢

痛める心に力を！
悩める心に慰めを！
迷へる心に信念を！

武者小路實篤氏が「新らしい村」を起した頃から京都の一燈園の噂が聞える樣になつたが、天香氏は十七年も一燈園の行者として托鉢奉仕をして居たのである。本書は一燈園の生活を紹介したもので「福田」「托鉢」「藝術と一燈園生活」等十三章に分れてゐて、皆天香氏が集會の席上で講話したものゝ筆記である。氏が宗派を超越して只管「お光」の惠の下に、絕對他力の生活を實現して、其日常衣食住をすら悉く托鉢奉仕に待つ態度は、似而非社會主義者や似而非宗教家の反省の機緣となるであらう。氏の弟子には倉田百三、宮崎安右衛門、島田清次郎等の人々が出てゐるに見ても、本書の著者がいかなる人物であるかは判るであらう。

——**大阪每日新聞批評**——

東京市神田區表神保町一〇
春秋社 發行
振替東京二四八六一
電話神田二一三八

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

梁川會編輯

（序）坪内逍遥　（顧問）中桐確太郎

（顧問）五十嵐力　（擔任者）安倍能成

（擔任者）望月世教　綱島政治

綱島梁川全集

豫約會員募集

光の讀者に限り特に

十一月末日迄申込受付

玲瓏たる哲人の心と、敬虔なる聖者の信と、幽寂たる隱士の風とを併せ有し、西田天香師とは生前無二の法友たりし梁川氏の全著作を網羅せる大出版なり！

豫約申込規定

一、刊行期日　大正十年十一月第一卷を發行し爾後每月一册宛刊行大正十一年七月完了全九卷。

一、非賣品　豫約會員にのみ頒つもので選擇豫約に應じません。

一、會費
每月拂　壹册　上製參圓參拾錢　書留送料金貳拾貳錢
　　　　　　　並製貳圓七拾錢　書留送料金貳拾錢
一時拂　全九册　上製金貳拾八圓　書留送料金貳圓
　　　　　　　　並製金貳拾參圓　書留送料金壹圓八拾錢
（每月五日迄に必ずお拂込下さい）

一、申込　每月拂の方に限り御申込の際證據金として上製金參圓參拾錢並製金貳圓七拾錢を送つて下さい。これは最後の卷の會費に換算するのですから第壹卷の會費は別に期日迄にお拂込下さい。中途御解約の方には申込金を返しませんからこの事はよく御承知下さい。

一、拂込方法　振替貯金で東京二四八六一番へ月末迄に來月分を御拂込み下さい

一、內容見本　引換小包は謝絶いたします。御申込次第無代進呈

豫約申込所　東京神田表神保町　（電話神田二一三八）（振替東京二四八六一）　春秋社

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN